

東前原遺跡

(第14地点 第2次・第15地点 第3次)

—区画道路6-17号外1路線道路改良及び造成並びに流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



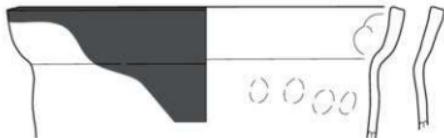
2019

水戸市教育委員会

東前原遺跡

(第14地点 第2次・第15地点 第3次)

—区画道路6-17号外1路線道路改良及び造成並びに流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2019

水戸市教育委員会

ごあいさつ

水戸市の東部に位置する常澄地区には、本書で報告する東前原遺跡をはじめ、小原遺跡、梶内遺跡、那賀郡家の別院とも考えられている大串遺跡などの重要な遺跡が存在しております。古くから連綿と人々の生活が営まれるとともに、古代律令体制下において重要な地域であったことが判明しつつあります。

一方、常澄地区の一画をなす東前町周辺では、近年の区画整理事業に伴い、周辺に位置する遺跡の様相が大きく変わりつつあります。そのため、本市教育委員会では、東前町周辺に今も眠っている遺跡の実像を後世に伝えるため、文化財保護法並びに関係法令に基づき、遺跡の保護保存に努めているところです。

本書は、道路改良等の工事に伴う記録保存を目的とした発掘調査の成果報告書であります。調査では、広範囲にわたる古代の集落跡と、粘土貼土坑等の中世を中心とする多くの遺構や遺物が検出され、大変貴重な成果となりました。

ここに刊行の運びとなりました本書を契機として、かけがえのない貴重な文化財に対する愛着を深めていただくとともに、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたりまして多大なる御理解と御協力を賜りました関係各位に、心から感謝を申し上げます。

平成31年3月

水戸市教育委員会教育長 本多 清峰

例　　言

- 1 本書は、水戸市東前町地内における区画道路6-17号外1路線道路改良及び造成並びに流域関連下水道工事に伴う発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、株式会社アートの調査支援を受け、水戸市教育委員会が主体で行った。
- 3 調査の概要は下記の通りである。

所 在 地 第14地点 第2次 水戸市東前町1221他6筆の各一部
(東前第2土地区画44街区2・3・10・12, 同5の一部)
第15地点 第3次 水戸市東前町1130-3他5筆の各一部
(東前第2土地区画6-32号線の一部)

調査面積 第14地点 (A区) 400m² 第15地点 (B区) 390m² 計790m²

調査期間 平成30(2018)年7月17日 から 平成30(2018)年9月19日 まで

調査主体 水戸市教育委員会

調査担当者 新垣 清貴(水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター)

調査支援 辻 弘和(株式会社アート)

調査参加者 坂場 光雄, 清水 春, 鈴木めぐみ, 谷川 明正, 飛田けい子,
三浦 瞳子

事務局 関口 慶久(埋蔵文化財センター所長)
米川 暢敬(埋蔵文化財センター主幹)
新垣 清貴(埋蔵文化財センター主幹)
廣松 淑一(埋蔵文化財センター文化財主事)
丸山優香里(埋蔵文化財センター嘱託員)
染井 千佳(埋蔵文化財センター嘱託員)
松浦 史明(埋蔵文化財センター嘱託員)
有田 洋子(埋蔵文化財センター嘱託員)
昆 志徳(埋蔵文化財センター嘱託員)
米川 健太(埋蔵文化財センター臨時職員)

- 4 本書は、辻, 新垣が分担して執筆し、新垣の指導のもと辻が編集した。
- 5 出土遺物及び図面・写真等の記録類は、一括して水戸市埋蔵文化財センターにて保管している。
- 6 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の諸機関よりご指導・ご協力を賜った。ご芳名を記して深く謝意を表する(敬称略・順不同)
公益財団法人茨城県教育財団 有限会社日誠土木 関東文化財振興会株式会社
佐々木 義則

凡　　例

- 1 本書に記してある座標値は、世界測地系第IX系を用いている。方位は座標北を示す。
- 2 本文中の色調表現は、『新版標準度色帖』2008年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。また、土層説明の中でのべた粒状の規模は、「粒子」は1mm以下、「小ブロック」は1～5mm、「中ブロック」は、5～10mm、「大ブロック」は10mm以上のものを表し、含有物の量は、微量（1～2%）、少量（2～5%）、中量（5～10%）、多量（10%以上）を表した。
- 3 標高は海拔標高である。
- 4 掲載した図面の基本縮尺は以下の通りである。

遺構図 東前原遺跡周辺遺跡地図1/25,000 グリッド設定図・全体図1/300 1/100
遺構図 1/60 1/40 1/30

なお、変則的な縮尺を用いた場合には、スケールによってその縮尺を示した。

遺物図 原則1/3とする。ただし、種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについて個々に縮尺をスケールで示した。

- 5 遺構・遺物実測図中のスクリーントーン及び記号は以下に示すとおりである。

遺構 一・一硬化面 ■ 粘土貼

遺物 ■ 赤色処理 ■ 施釉 ■ 黒色処理 ■ 煤・油煙

- 6 実測図・遺物観察表・本文中で用いた略号は、次の通りである。

SI—堅穴建物 SK—土坑 SD—溝跡 SX—不明遺構 P—ピット

K—搅乱

- 7 主軸は堅穴建物の竪を通る軸線、土坑は長軸とし主軸方向はその主軸が座標北からみてどの方向にどれだけ振れているかを角度で示した。（例 N-10°-W）

- 8 遺物観察表の記載方法は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、cm, gである。なお、現存値は〔 〕で、推定値は()で示した。
(2) 備考の欄は、その他必要と思われる事項を記した。

- 9 A, B区ともに、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、A区は、X座標=38,080m, Y座標=62,350mの交点を基準点(A1)とし、B区は、X座標=37,960m, Y座標=62,160mの交点を基準点(A1)とした。座標数値に関しては世界測地系を用いている。調査区内は10m毎にグリッドを設定した。

目 次

序

例言

凡例

第1章 調査に至る経緯と調査経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
第2章 遺跡の地理的環境と歴史的環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3節 東前原遺跡における既往の調査	6
第3章 調査概要及び基本層序	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	12
第4章 A区（第14地点 第2次調査区）遺構と遺物	13
第1節 堅穴建物跡	13
第2節 土坑	19
第3節 溝跡	36
第4節 性格不明遺構	36
第5節 遺構外出土遺物	37
第5章 B区（第15地点 第3次調査区）遺構と遺物	40
第1節 堅穴建物跡	40
第2節 土坑	44
第3節 溝跡	52
第4節 ピット	55
第5節 遺構外出土遺物	56
第6章まとめ	57
第1節はじめに	57
第2節 土地利用の変遷について	57
第3節 土坑について	61

図版目次

第1図 第14地点試掘調査のトレンド配置と 遺構検出状況図.....	1	第20図 第38・39・41・42号土坑出土遺物...	34
第2図 東前原遺跡周辺遺跡地図.....	7	第21図 第1号溝跡実測図.....	36
第3図 東前原遺跡における既往の調査図...	9	第22図 第1号性格不明遺構実測図.....	37
第4図 東前原遺跡第14・15地点位置図.....	11	第23図 第1号性格不明遺構出土遺物.....	37
第5図 A区基本層序図.....	12	第24図 遺構出土遺物	38
第6図 B区基本層序図.....	12	第25図 B区(第15地点第3次調査区)全体図.	41
第7図 A区(第14地点第2次調査区)全体図.	14	第26図 第1号竪穴建物跡実測図.....	42
第8図 第1号竪穴建物跡実測図.....	15	第27図 第2号竪穴建物跡実測図.....	42
第9図 第2号竪穴建物跡実測図.....	16	第28図 第3号竪穴建物跡実測図.....	43
第10図 第3号竪穴建物跡実測図.....	16	第29図 第1号竪穴建物跡出土遺物.....	44
第11図 第4号竪穴建物跡実測図.....	17	第30図 第2号竪穴建物跡出土遺物.....	44
第12図 第1号竪穴建物跡出土遺物.....	18	第31図 第1～19号土坑実測図.....	50
第13図 第2号竪穴建物跡出土遺物.....	18	第32図 第20～28号土坑実測図.....	51
第14図 第4号竪穴建物跡出土遺物.....	18	第33図 第22号土坑出土遺物.....	52
第15図 第1～7号土坑実測図.....	28	第34図 第1号溝跡全体図.....	53
第16図 第8～19号土坑実測図	29	第35図 第1号溝跡実測図.....	54
第17図 第20～33号土坑実測図.....	30	第36図 第1～12号ピット実測図	55
第18図 第34～42号土坑実測図.....	31	第37図 7世紀～9世紀竪穴建物跡分布図	58
第19図 第8・10・14・20・23・24・36・37号 土坑出土遺物.....	33	第38図 溝・土坑分布図.....	60

表目次

第1表 東前原遺跡周辺遺跡一覧表.....	8	第15表 第38号土坑出土遺物観察表.....	35
第2表 東前原遺跡における既往の調査表...	10	第16表 第39号土坑出土遺物観察表.....	35
第3表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表...	19	第17表 第41号土坑出土遺物観察表.....	35
第4表 第2号竪穴建物跡出土遺物観察表...	19	第18表 第42号土坑出土遺物観察表.....	35
第5表 第4号竪穴建物跡出土遺物観察表...	19	第19表 第1号性格不明遺構出土遺物観察表.	37
第6表 第4号竪穴建物跡出土金属製品観察表...	19	第20表 遺構出土遺物観察表.....	38
第7表 第8号土坑出土遺物観察表.....	34	第21表 遺構出土土製品遺物観察表.....	38
第8表 第10号土坑出土遺物観察表.....	34	第22表 A区出土遺物数量一覧表.....	39
第9表 第14号土坑出土遺物観察表.....	34	第23表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表...	44
第10表 第20号土坑出土遺物観察表.....	34	第24表 第2号竪穴建物跡出土遺物観察表...	44
第11表 第23号土坑出土遺物観察表.....	35	第25表 第22号土坑出土遺物観察表.....	52
第12表 第24号土坑出土遺物観察表.....	35	第26表 ピット一覧表.....	56
第13表 第36号土坑出土遺物観察表.....	35	第27表 B区出土遺物数量一覧表.....	56
第14表 第37号土坑出土遺物観察表.....	35		

写真図版目次

- 図版1 A区全景（北西から） A区全景（南から） A区全景（東から）
図版2 基本層序土層断面（北から） 第1号堅穴建物跡全景（南から）
第1号堅穴建物跡土層断面（南から） 第1号堅穴建物跡竈遺物出土状況（南から）
第1号堅穴建物跡竈土層断面（南から） 第2号堅穴建物跡全景（東から）
第2号堅穴建物跡土層断面（西から） 第2号堅穴建物跡土層断面（北から）
図版3 第2号堅穴建物跡竈全景（南から） 第2号堅穴建物跡竈土層断面（西から）
第2号堅穴建物跡土層断面（南から） 第2号堅穴建物跡竈掘り方全景（南から）
第3号堅穴建物跡全景（南から） 第3号堅穴建物跡土層断面（西から）
第3号堅穴建物跡遺物出土状況（南から） 第3号堅穴建物跡竈遺物出土状況（南から）
図版4 第4号堅穴建物跡全景（東から） 第4号堅穴建物跡土層断面（東から）
第4号堅穴建物跡遺物出土状況（南から） 第4号堅穴建物跡鉄鎌出土状況（北西から）
第1号土坑全景（南から） 第1号土坑土層断面（南から） 第2号土坑全景（南から）
第2号土坑掘り方全景（南から）
図版5 第2号土坑粘土貼状況（南から） 第3号土坑全景（南から）
第3号土坑掘り方全景（南から） 第4号土坑全景（西から）
第4号土坑土層断面（西から） 第4号土坑掘り方全景（西から）
第4号土坑粘土貼状況（南西から） 第5号土坑全景（東から）
図版6 第5号土坑土層断面（東から） 第6号土坑全景（南から） 第6号土坑土層断面（南から）
第7号土坑全景（南から） 第7号土坑土層断面（南から） 第8号土坑全景（南から）
第8号土坑掘り方全景（南から） 第8号土坑粘土貼状況（南から）
図版7 第9号土坑全景（南から） 第9号土坑掘り方全景（南から）
第9号土坑粘土貼状況（南から） 第10号土坑全景（南から） 第10号土坑土層断面（南から）
第11号土坑全景（東から） 第11号土坑土層断面（東から） 第12号土坑全景（東から）
図版8 第12号土坑土層断面（東から） 第13号土坑全景（西から） 第13号土坑土層断面（西から）
第14号土坑全景（南から） 第14号土坑土層断面（南から） 第15号土坑全景（南から）
第15号土坑土層断面（南から） 第16号土坑全景（西から）
図版9 第16号土坑土層断面（西から） 第17号土坑全景（南から） 第17号土坑土層断面（南から）
第20号土坑全景（北から） 第20号土坑土層断面（北東から）
第20号土坑遺物出土状況（北から） 第21号土坑全景（南から）
第21号土坑土層断面（南から）
図版10 第22号土坑全景（南から） 第22号土坑土層断面（南から） 第23号土坑全景（西から）
第23号土坑土層断面（西から） 第24号土坑全景（南から） 第24号土坑土層断面（南から）
第25号土坑全景（北から） 第25号土坑土層断面（北から）
図版11 第26号土坑土層断面（南から） 第27号土坑全景（北から） 第27号土坑土層断面（北から）
第30号土坑全景（東から） 第30号土坑土層断面（東から） 第31号土坑全景（西から）
第32号土坑全景（西から） 第33号土坑全景（西から）
図版12 第31～33号土坑土層断面（西から）
第33号土坑土層断面（西から） 第34号土坑全景（東から） 第35号土坑全景（北から）
第36号土坑全景（西から） 第37号土坑全景（北西から） 第38号土坑全景（南東から）
第39号土坑全景（南西から）
図版13 第37～39号土坑土層断面（南西から） 第41号土坑全景（北から）
第41号土坑土層断面（北から） 第42号土坑全景（西から） 第42号土坑土層断面（南西から）
第1号構跡全景（西から） 第1号性格不明遺構全景（北から）
第1号性格不明遺構土層断面（北から）

- 図版14 B区全景（南から） 遺構検出状況（南から） 第1号竪穴建物跡全景（南から）
第1号竪穴建物跡土層断面（西から） 第1号竪穴建物跡遺物出土状況（南から）
- 図版15 第2号竪穴建物跡全景（南から） 第2号竪穴建物跡土層断面（北西から）
第2号竪穴建物跡遺物出土状況（南から） 第3号竪穴建物跡全景（南から）
第3号竪穴建物跡北壁土層断面（南から） 第3号竪穴建物跡西壁土層断面（東から）
第1号土坑全景（北から） 第1号土坑土層断面（北から）
- 図版16 第2号土坑全景（北から） 第2号土坑土層断面（北から） 第3号土坑全景（北から）
第3号土坑土層断面（北から） 第4号土坑全景（東から） 第5号土坑全景（東から）
第6号土坑全景（南から） 第6号土坑土層断面（南から）
- 図版17 第7号土坑土層断面（南から） 第8号土坑土層断面（北から） 第9号土坑全景（北から）
第10号土坑全景（南から） 第10号土坑土層断面（南から） 第11号土坑全景（西から）
第11号土坑土層断面（西から） 第12号土坑全景（南から）
- 図版18 第12号土坑土層断面（南から） 第14号土坑全景（南西から）
第14号土坑土層断面（南西から） 第15号土坑全景（南から） 第15号土坑土層断面（南から）
第16号土坑土層断面（南から） 第17号土坑全景（北東から）
第17号土坑土層断面（北東から）
- 図版19 第18号土坑全景（北から） 第18号土坑土層断面（北から） 第19号土坑全景（南東から）
第19号土坑土層断面（南東から） 第20号土坑全景（北から） 第21号土坑全景（南から）
第21号土坑土層断面（南から） 第22号土坑全景（北東から）
- 図版20 第23号土坑土層断面（西から） 第24号土坑全景（北西から）
第24号土坑土層断面（北西から） 第25号土坑全景（南東から）
第25号土坑土層断面（南東から） 第26号土坑全景（北東から） 第27号土坑全景（北から）
第28号土坑土層断面（南から）
- 図版21 第1号溝跡検出状況（北から） 第1号溝跡全景（北から）
第1号溝跡2土層断面（南から） 第1号溝跡3土層断面（南から）
第1号溝跡4土層断面（南から） 基本層序1土層断面（北から）
基本層序2土層断面（西から） 基本層序3土層断面（西から）
- 図版22 A区 第1号竪穴建物跡出土遺物1 A区 第1号竪穴建物跡出土遺物2
A区 第1号竪穴建物跡出土遺物3 A区 第1号竪穴建物跡出土遺物4
A区 第2号竪穴建物跡出土遺物1 A区 第2号竪穴建物跡出土遺物2
A区 第2号竪穴建物跡出土遺物3
- 図版23 A区 第4号竪穴建物跡出土遺物1 A区 第4号竪穴建物跡出土遺物2
A区 第4号竪穴建物跡出土遺物3 A区 第4号竪穴建物跡出土遺物4
A区 第8号土坑出土遺物1 A区 第8号土坑出土遺物2 A区 第10号土坑出土遺物1
A区 第14号土坑出土遺物1 A区 第20号土坑出土遺物1
- 図版24 A区 第20号土坑出土遺物2 A区 第23号土坑出土遺物1 A区 第24号土坑出土遺物1
A区 第36号土坑出土遺物1 A区 第36号土坑出土遺物2 A区 第36号土坑出土遺物3
A区 第37号土坑出土遺物1 A区 第37号土坑出土遺物2 A区 第37号土坑出土遺物3
A区 第38号土坑出土遺物1
- 図版25 A区 第39号土坑出土遺物1 A区 第41号土坑出土遺物1 A区 第41号土坑出土遺物2
A区 第41号土坑出土遺物3 A区 第42号土坑出土遺物1
A区 第1号性格不明遺構出土遺物1 A区 第1号性格不明遺構出土遺物2
A区 遺構外出土遺物1 A区 遺構外出土遺物2 A区 遺構外出土遺物3
- 図版26 A区 遺構外出土遺物4 A区 遺構外出土遺物5 A区 遺構外出土遺物6
A区 遺構外出土遺物7 A区 遺構外出土遺物8 A区 遺構外出土遺物9
B区 第1号竪穴建物跡出土遺物1 B区 第2号竪穴建物跡出土遺物1
B区 第22号土坑出土遺物1

第1章 調査に至る経緯と調査経過

第1節 調査に至る経緯（第1図）

水戸市長高橋靖（都市計画部市街地整備課東前地区開発事務所報）から、水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（照会）」が2通提出された。一つは平成29年11月16日付け東開第284号にて土地区画整理事業に伴うもの（水戸市東前町1211他6筆の各一部、以下「A区」という）で、もう一つは、平成29年10月24日付け東開第237号にて区画整理事業道路建設に伴うもの（水戸市東前町1130-3他3筆の各一部、以下「B区」という）である。

照会地は、いずれも周知の埋蔵文化財包蔵地「東前原遺跡」に該当していることから、市教委は事業計画に基づき、平成29年12月15日から平成29年12月19日にかけてA区の試掘・確認調査を実施した（東前原遺跡第14地点第1次）。その結果、複数の埋蔵文化財の分布を確認した（第1図）。

一方B区については、平成27年実施の第6地点の調査結果から古代の遺構が確認されており、埋蔵文化財が存在していることは確実であったため、試掘・確認調査は実施しなかった。

その後A・B区全体での事業計画と試掘調査成果及び周辺の調査結果を照合し、「茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱い基準」原則Ⅲに該当するものと判断された。そのため、市教委は、その保存のあり方について都市計画部市街地整備課東前地区開発事務所（以下「事業課」という。）と協議を進めたが、工事による埋蔵文化財への影響は不可避であるとの結論に達した。従って工事にあたっては、記録保存を目的とした本発掘調査が必要であるとし、事業課から提出のあった文化財保護法第94条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘の通知について」を平成29年10月30日付け教理第1408号（A区）及び平成29年11月16日付け教理第1341号（B区）にて茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて送達した。この通知に対し、県教委教育長から平成30年2月20日付け文第2975号にて（A区）及びB区を、平成30年2月20日付け文第2973号（B区）にて工事前に発掘調査を実施すること、また、調査の結果重要な遺構が確認された場合には、その保存について別途協議を要する旨の指示・勧告があった。

これを受け、市教委は工事対象地のうち、埋蔵文化財が確認されたA区400m²及びB区390m²を調査対象とし、株式会社アートと発掘調査支援業務委託を締結のうえ、平成30年7月3日から平成30年8月17日の期間をもって本発掘調査を実施した。



第1図 第14地点試掘調査のトレンチ配置と遺構検出状況図

第2節 調査の方法と経過

今次の発掘調査は、平成30年7月3日から9月19日の約2か月半間にわたって実施した。第14地点第2次調査区をA区、第15地点第3次調査区をB区とそれぞれ呼称し、調査を行った。

7月3日にA区から重機による表土除去を開始した。調査区近接地には、電柱が架設されているため、慎重な作業を余儀なくされた。表土をある程度除去した段階から、遺構確認のための精査を人力にて行った。その結果、この地点は古代及び中世の2時期に分かれることが判明したため、まず中世の遺構から調査を開始し、その後、古代の遺構の調査を行った。遺構は竪穴建物跡4軒、土坑41基、性格不明遺構1基、溝跡1条を検出した。8月17日にA区の調査が終了した。

B区は、8月27日から重機による表土除去を行った。調査区の東西には住宅が立ち並び、上空には電線が架設されており、それらを避けながら慎重に行った。A区と同様に表土を除去した段階から、遺構確認のための精査を人力にて行った。遺構は竪穴建物跡3軒、土坑28基、溝跡1条、ピット12基を検出した。9月19日にB区の調査が終了した。

調査区の座標はA、B区ともに、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、A区は、X座標=38,080m、Y座標=62,350mの交点を基準点(A1)とし、B区は、X座標=37,960m、Y座標=62,160mの交点を基準点(A1)とした。座標数値に関しては世界測地系を用いている。調査区内を、10m毎にグリッドを設定した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遺り方測量及び光波トランシットによる座標測量を行った。遺構については平面・土層断面を1/20を原則とし適宜記録した。

遺構の名称については、調査区毎及び遺構毎に1から通し番号をつけた。

出土遺物は、遺構内外で遺物が出土した場合は、遺構等との関連性を確認しながら遺構毎及びグリッド毎に1から通し番号をつけて座標にて取り上げた。

写真撮影は、一眼レフデジタルカメラ(1,420万画素)を使用し、適宜記録を行った。

整理作業調査は平成30年9月22日から平成31年3月15日まで実施した。

遺物は洗浄から開始し、終了後注記を行った。注記は遺跡名・地点名を第14地点は「201259-014」、第15地点は「201259-015」とし、その後ろに遺構名・取り上げNo等を記入した。遺物への注記は、白色のボスタークーラーで行い、ニスでコーティングを施した。注記終了後に遺物を器種ごとに分類し接合を行った。接合が終了した時点で掲載遺物を抽出した。その後、掲載遺物を含め出土地点・器種ごとに分類し破片・個体数の点数及び重量を計測した。掲載遺物は方眼紙に原寸で手実測し、実測原図を2/3に縮小したものを「adobe Illustrator CC」でトレースした。遺物写真は一眼レフデジタルカメラ(1,790万画素)で撮影した。

遺構図は現場で1/20等で手実測した図面を方眼紙に第二原図を作成し、第二原図を2/3に縮小して「Adobe Illustrator CC」でトレースした。

原稿執筆は、「Microsoft Word2013」で行い、版組みは「Adobe InDesign CC」で行った。編集及び校正は、水戸市教育委員会と辻が協議の上行った。

(辻)

第2章 遺跡の地理的環境と歴史的環境

第1節 地理的環境

東前原遺跡は、茨城県水戸市東前町地内に所在している。

水戸市は、県のほぼ中央部に位置し、北は那珂市・東茨城郡城里町、東はひたちなか市・東茨城郡大洗町、南は東茨城郡茨城町、西は笠間市と接している。市域は、江戸時代水戸徳川家の城下町として栄え、明治時代以降は県庁所在地として、本県の政治、経済、文化の中心地となっている。

市域の地形は、北西から南東に流れる那珂川とその支流である桜川や調沼川により形成された沖積低地（標高10m以下）と、南西側の洪積台地である東茨城台地（標高20～30m）、北西側は鶴足山塊からの丘陵地（標高60～200m）、北東側の一部は那珂川左岸の那珂台地からなっている。

台地の地質は、古生代の鶴足層を基盤とし、下層から第三紀層の泥岩からなる水戸層、第四紀層の粘土や砂で構成される見和層、段丘疊層の上市層、灰白色粘土の常総粘土層、関東ローム層の順に堆積している。また、低地部は沖積谷に河川堆積物である砂礫層が堆積し、場所によっては有機質の黒色泥や草炭類の堆積が見られる。

第2節 歴史的環境（第2図/第1表）

本遺跡の所在する常澄地区は、原始・古代から多くの遺跡が確認されている。国指定史跡である大串貝塚は、奈良時代に書かれた『常陸國風土記』に「平津の驛家の西一二里に岡あり。名を大櫛といふ。上古、人あり。軀は極めて長大く、身は丘壠の上に居ながら、手は海濱の蜃を摺りぬ。其の食ひし貝、積聚りて岡と成りき。時の人、大持の義を取りて、今は大櫛の岡と謂ふ」とあり（秋元校注1958），古代から注目されていた場所である。以下、『茨城県遺跡地図』（茨城県教育庁文化課編2001）の中で報告されている水戸市常澄地区を中心に主な遺跡を時代別に概観する。

旧石器時代の遺跡は、ナイフ型石器文化の後半に位置付けられる森戸遺跡（201-177）がある。

縄文時代になると、沖積低地に沿った台地縁辺部に数多くの遺跡が確認されている。特に大串貝塚（201-175）は、大場磐雄をはじめ多くの研究者によって7度の発掘調査が実施されている。調査の結果、多量の貝殻や獸骨、魚骨、土器が出土し、前期の貝塚であることがわかった。また、下畑遺跡では、加曾利E式、大木8b式期の竪穴建物跡をはじめとする遺構群が確認され、中期から後期にかけての人々の営みを知ることができる（水戸市下畑遺跡発掘調査会編1985）。その他、谷田貝塚、六地蔵寺遺跡（201-181）、上平遺跡（201-193）、東前遺跡（201-179）、向山遺跡（201-178）、道西遺跡（201-279）等が挙げられる。

弥生時代の遺跡は、丘陵沿いの台地上や縁辺部に確認される。東前原遺跡（201-259）では、後期の竪穴建物跡が確認されている。また、芳賀遺跡、高原遺跡（201-147）、大道端遺跡においても当該時期の遺物が分布している。

古墳時代になると、随所に大小の集落が営まれ、多くの古墳が築造されるようになる。

古墳は、那珂川右岸と潤沼川左岸の台地上縁辺部に小形の円墳を中心に群集している。六反田古墳群（201－250）、愛宕神社古墳（201－189）、金山塚古墳群（201－186）、大串古墳群（201－187）、高原古墳群（201－242）、潤沼台古墳群（201－195）、小山古墳群（201－191）、森戸古墳群（201－192）、下入野古墳群、長福寺古墳群（201－194）、下入野西古墳群等が挙げられる。

水田下から五領式土器が発見された沖積低地上の六反田広町遺跡（201－203）は、市域において数少ない低地遺跡の一つである。また、北屋敷遺跡（201－248）からは、古墳時代前期の竪穴建物跡2軒と中期の竪穴建物跡1軒が確認されており、古墳と集落との関係を考えるうえで興味深いものとなっている（茨城県教育財団編1993）。前期の集落として大串遺跡（201－176）、後期の集落として竪穴建物跡8軒確認された梶内遺跡（201－246）がある。

奈良・平安時代の集落跡は、竪穴建物跡18軒が確認された向山遺跡をはじめ、大串遺跡、梶内遺跡、諏訪前遺跡（201－244）、沢幡遺跡（201－345）、高原遺跡、北屋敷遺跡等が挙げられる。向山遺跡は、東茨城台地南東端の那珂川に面した台地縁辺部に立地し、竪穴建物跡からは、布目瓦や墨書土器が出土している。また第14号竪穴建物跡から、10世紀代の土師器皿内面に描かれた人面墨書土器が出土している。大串遺跡では、桁行6間×梁行3間の大型掘立柱建物跡等が発見されている。掘立柱建物跡の柱抜き取り穴からは多量の炭化材と炭化米が、区画溝からは炭化した穎稻や穀稻が出土している。これらの建物は正倉の性格を有し、火災によって焼失したことが明らかになっている。そのほか、「厨」銘墨書土器も出土している（水戸市教育委員会編2008）。梶内遺跡では、7世紀から10世紀までの竪穴建物跡が109軒確認されている。長期にわたり継続する集落跡であり、「舍人」「長」や里（郷）名を記したとみられる「芳」銘墨書土器のほか、円面硯が出土している（茨城県教育財団編1995）。両遺跡とも官衙関連遺跡の可能性がある。諏訪前遺跡では、8世紀と9世紀前葉の竪穴建物跡5軒が確認されている（茨城県教育財団編1993）。沢幡遺跡では、9世紀前葉から10世紀前葉の竪穴建物跡14軒が確認されている。沢幡遺跡からは、「堤東」や「伍仔」等の墨書土器や愛知県猿投窓産陶器、鉄製品が多量に出土している（茨城県教育財団編1993）。大串遺跡からは、9世紀代の須恵器製藏骨器が2点出土しており、平安時代の当地域に火葬の風習が入っていたことが理解できる。

『新編常陸国誌』によれば、当時の常澄地区は、那賀郡芳賀里（郷）に属していたとの記載がある（中山1979）。那賀郡の郡衙は、「仲寺」の墨書土器や「徳輪寺」と記された文字瓦が出土した台渡里官衙遺跡群に比定されている。また、那賀郡には奈良時代に平津駅家が置かれていた。平津駅家の位置は、『常陸國風土記』の「平津駅家の西1,2里に大串の岡がある」との記載から、現在の平戸地区に展開するものと推定されている。平津にあつたとされる河岸は、蝦夷征東のための軍需物資の中継地であり、それに連動した平津駅家も通常の駅家と性格を異にする施設があったものと考えられている。こうした地理的・歴史的背景を有する奈良・平安時代の常澄地区は、台地上を中心として、いくつもの集落が営まれていたものと考えられる。

中世には、常陸大掾氏の一族石川氏がこの地域一帯を開発・支配していた。当遺跡周辺に位置する主な城館跡としては、椿山館跡〈201-201〉、和平館跡〈201-202〉、大串原館跡〈201-261〉、久保山館跡〈201-268〉が挙げられる。いずれの館跡も土塁の残存が報告されているが、調査事例が少なく詳細については不明な点が多い。

近世においては、立原伊豆守の居所と言われる伊豆屋敷跡〈201-251〉からは3条の土塁と1条の溝跡が確認されている（水戸地方埋蔵文化財調査研究会編1998）。

以上のように東前原遺跡が立地する台地上には、縄文時代から近世に至るまでの多くの遺跡が所在している。

引用・参考文献

- 秋元吉郎校注 1958年『風土記』「常陸國風土記」（日本古典文学大系2）岩波書店
- 茨城県編 1979年3月『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』
- 茨城県教育財団編 1993年3月『中ノ割遺跡・小山遺跡・諏訪前遺跡・高原古墳群・沢幡遺跡・高原遺跡・北星敷遺跡』
(茨城県教育財团文化財調査報告第79集)
- 茨城県教育財団 1995年3月『桜内遺跡 一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書II』
(茨城県教育財团文化財調査報告第100集)
- 茨城県教育庁文化課編 2001年『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会
- 常澄村史誌編纂委員会編 1989年8月『常澄村史 通史編』
- 中山信名 1979年12月『新編常陸国志』宮崎報恩会
- 水戸市教育委員会編 1984年3月『水戸市埋蔵文化財分布調査報告』
- 水戸市教育委員会編 2008年『大串遺跡(第7地点) 介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
(水戸市埋蔵文化財調査報告第14集)
- 水戸市教育委員会編 2017年3月『東前原遺跡(第10地点) 区画道路6-33号線道路改良及び流域間連下水道工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』(水戸市埋蔵文化財報告第89集)
- 水戸市史編纂委員会編 1963年9月『水戸市史』
- 水戸市下畠遺跡発掘調査会編 1985年『水戸市下畠遺跡 市道門8号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』
- 水戸地方埋蔵文化財調査研究会編 1998年『伊豆屋敷跡確認調査報告 基地造成事業に伴う埋蔵文化財有無の確認調査』

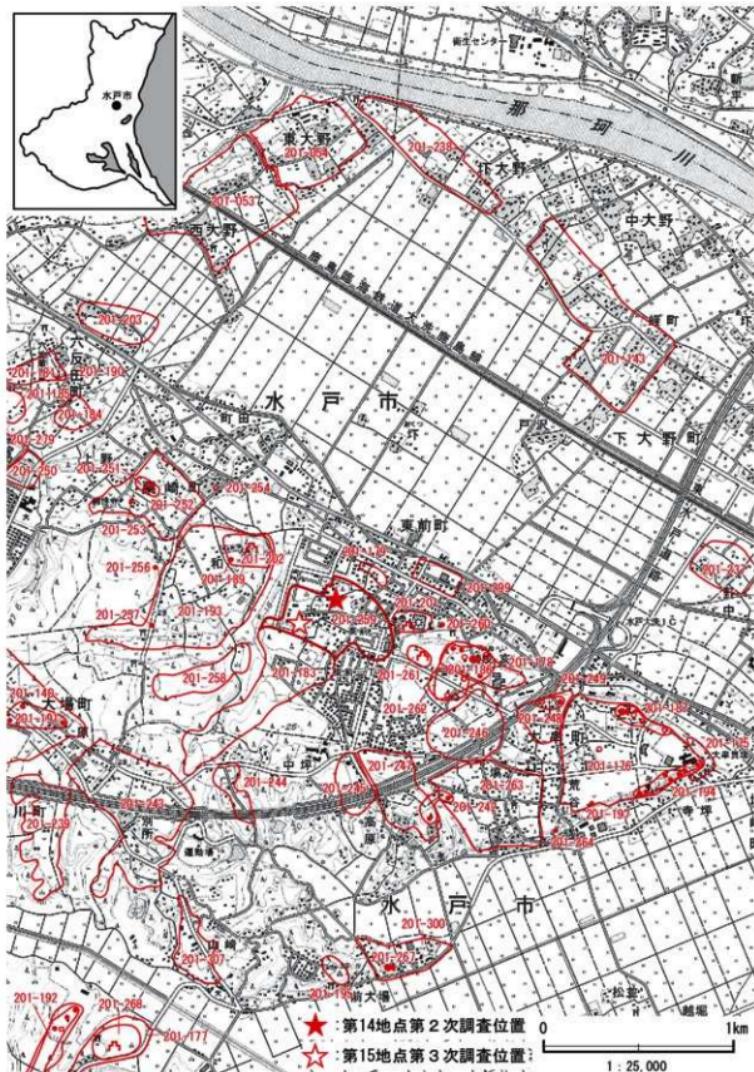
第3節 東前原遺跡における既往の調査（第3図/第2表）

東前原遺跡の調査は、これまでに22地点で実施されている。個人住宅建築等に伴う、調査範囲の狭小な試掘調査も多いが、奈良・平安時代を中心とする集落が広範囲に展開することが確認されている。本発掘調査に至ったのは、今回の調査を含めると土地区画整理事業に伴う調査（第3・7・8・10・13～15地点）、個人住宅建築に伴う調査（第12地点）、店舗建設に伴う調査（第17地点）、福祉施設建設に伴う調査（第19地点）の計10地点である。

これまでの調査において第7地点、第8地点（第2～4次）等で検出された大規模な溝跡が注目される。遺構年代は、第8地点（第2次）報文で中世に下る可能性が指摘されているが、奈良・平安時代の遺物が主体であることから未だ結論は出ていない。第8地点（第3・4次）では東西方向、第8地点（第2次）では南北方向に向かうことが確認されており、第8地点（第2次）ものを東辺、第7地点のものを南辺、第8地点（第3・4次）のものを北辺とすれば、方形を呈する区画溝が想定される。溝跡は、断面が逆台形またはV字状を呈し、掘り直しが確認される箇所もあり、比較的長期間の利用と推定される。第8地点（第3次）では、想定される区画内から10世紀代の堅穴建物跡や掘立柱建物跡が多数切りあって確認されている。官衙関連施設の存在を思わせるが、さらなる慎重な検討が必要である。

このように東前原遺跡は、これまでに発見された多くの遺構・遺物から、市域東部地域における重要な遺跡のひとつと言える。

（註）

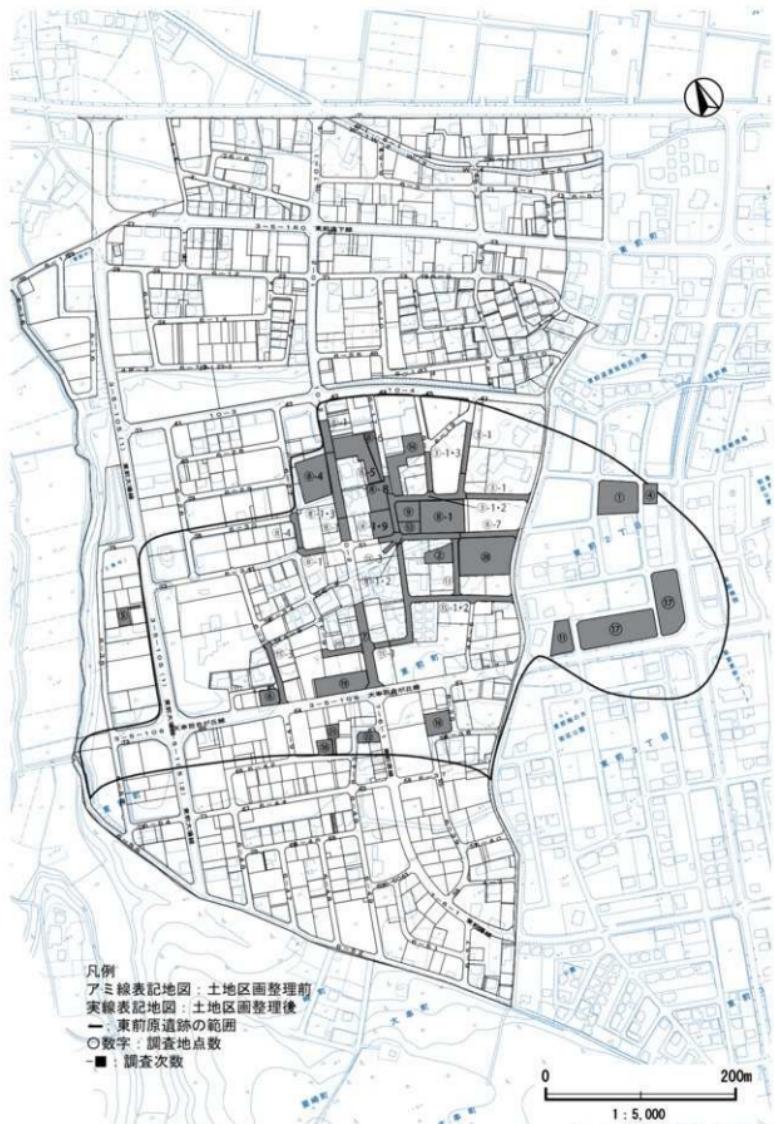


第2図 東前原遺跡周辺遺跡地図

第1表 東前原遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
201-053	西大野遺跡			○	○				201-242	高原古墳群				○			
201-054	東大野遺跡				○	○			201-243	小山遺跡		○					
201-140	乗越沢遺跡		○		○	○			201-244	諏訪前遺跡				○			
201-143	中大野遺跡			○	○				201-245	沢幡遺跡				○			
201-175	大串貝塚		○						201-246	梶内遺跡				○	○		
201-176	大串遺跡		○		○	○			201-247	高原遺跡			○		○		
201-177	森戸遺跡	○							201-248	北屋敷遺跡			○	○			
201-178	向山遺跡		○	○	○				201-249	北屋敷古墳群			○				
201-179	東前遺跡		○		○				201-250	六反田古墳群			○				
201-181	六地蔵寺遺跡		○	○	○				201-251	伊豆屋敷跡						○	
201-183	小原遺跡		○	○	○				201-252	上野遺跡				○			
201-184	新地遺跡				○	○			201-253	佛性寺古墳			○				
201-185	薄内遺跡		○		○	○			201-254	フジヤマ古墳			○				
201-186	金山塚古墳群				○				201-256	諏訪神社古墳			○				
201-187	大串古墳群				○				201-257	千勝神社古墳			○				
201-189	愛宕神社古墳				○				201-258	打越遺跡			○				
201-190	六地蔵古墳				○				201-259	東前原遺跡			○	○			
201-191	小山古墳群				○				201-260	住吉神社古墳			○				
201-192	森戸古墳群				○				201-261	大串原館跡					○		
201-193	上平遺跡				○	○			201-262	大串原遺跡			○				
201-194	長福寺古墳群				○				201-263	宮前遺跡			○				
201-195	瀬沼台古墳群				○				201-264	東畠古墳			○				
201-197	善徳寺古墳				○				201-267	天神山古墳			○				
201-201	椿山館跡						○		201-268	久保山館跡					○		
201-202	和平館跡						○		201-279	道西遺跡		○	○	○	○		
201-203	六反田広町遺跡				○				201-299	上の下遺跡				○			
201-237	野中遺跡				○	○			201-300	天神山遺跡			○	○			
201-238	坪大野遺跡				○				201-307	山崎遺跡				○			
201-239	中ノ割遺跡		○		○												

第3節 東前原遺跡における既往の調査



第3図 東前原遺跡における既往の調査図

第2表 東前原遺跡における既往の観察表

地點 次 数	調査箇所	調査年月日	種別	調査原因	遺構	遺物	備考
1	東前町 2-57・60	H20/11/11	試	共同住宅建築	-	○	水戸市教委 2011
2	東前第二土地区画 50 街区 8	H24/2/2	試	個人住宅建築	-	-	
1	東前第二土地区画 6-17・18・20・21 号線（部分）	H26/5/8 ~ 9	試	土地区画整理事業	○	○	
3	東前第二土地区画 6-18・20・21 号線	H27/2/9 ~ 3/10	本		○	○	
3	東前第二土地区画 18・6・20・21 号線	H31/1/17	試		-	-	
4	東前町 2-61・62	H26/7/30	試	個人住宅建築	-	○	
5	東前第二土地区画 75 街区 15	H27/1/22	試	個人住宅建築	-	-	
6	東前第二土地区画 33 街区 2	H27/4/28	試	個人住宅建築	○	○	
7	1 東前第二土地区画 10-2 号線（部分）	H27/5/8	試	土地区画整理事業	○	○	
7	2	H28/3/28 ~ 4/21	本		○	○	
1	東前第二土地区画 43 街区 22（部分）	H27/6/16 ~ 19	試	土地区画整理事業	○	○	第 8 地点 2 ~ 9 次を含む
2	東前第二土地区画 6-22・31 号線（部分） / 同 48 街区 3・4・同 6-2・22・31 号線部分	H27/12/22 ~ H28/1/20	本		○	○	
3	東前第二土地区画 10-2 号線（部分）	H28/3/8 ~ 4/6	本		○	○	
4	東前第二土地区画 42 明区 3・8・18・20 他 6-27 号線の一部	H28/3/8 ~ 5/31	本		○	○	
5	東前第二土地区画 43 街区 32・37・39・41・42・43・44・45	H28/5/25 ~ 7/7	本		○	○	
6	東前第二土地区画 43 街区 5・28・38・40・36 他 39 の一部	H28/7/12	立		○	○	
7	東前第二土地区画 6-22 号線（部分）	H28/12/25 ~ 1/7	本		○	○	
8	東前第二土地区画 43 街区 9/ 同 6-17 号線（部分）	H29/6/7 ~ 7/26	本		○	○	
9	東前第二土地区画 43 街区 22（部分）	H29/7/20 ~ 8/26	本	農業用倉庫建築	○	○	
9	東前第二土地区画 48 街区 6・7	H27/7/15	試	個人住宅建築	-	-	
10	1 東前第二土地区画 6-33 号線（部分）	H28/8/19	試	土地区画整理事業	○	○	
10	2	H28/11/10 ~ 12/28	本		○	○	水戸市教委 2017
11	東前町 2-42-2 ~ 4	H28/9/2	試	宅地造成	○	○	
12	1 東前第二土地区画 48 街区 8	H29/3/24	試	個人住宅建築	○	○	
12	2	H29/5/11 ~ 6/2	本		○	○	
13	1 東前第二土地区画 6-25 号線	H29/3/24	試	土地区画整理事業	○	○	
13	2	H29/8/18 ~ 30	本		○	○	
14	1 東前第二土地区画 44 街区 2・3・10・12・同 5 の一部	H29/12/15 ~ 19	試	土地区画整理事業	○	○	
14	2	H30/7/3 ~ 8/17	本		○	○	本報告書
15	1 東前第二土地区画 6-32 号線（部分）	H29/12/15 ~ 21	試	土地区画整理事業	○	○	
15	3	H30/6/27 ~ 9/19	本		○	○	
16	2 東前第二土地区画 6-17・22・23 号線（部分）	H30/7/27 ~ 9/19	本		○	○	本報告書
17	東前第二土地区画 53 街区 29	H29/12/21	試	個人住宅建築	○	○	
17	1 東前町 2-35・36・37・38	H30/3/7 ~ 14	試	店舗建設	○	○	
17	2	H30/6/20 ~ 8/31	本	店舗建設	○	○	
18	東前第二土地区画 64 街区 15	H30/4/24	試	個人住宅建築	-	○	
19	1 東前第二土地区画 34 街区 7・10・11・15・18	H30/5/31	試	福祉施設建設	○	○	
19	2	H31/1/25	試		○	○	
19	3	H31/1/25	立		-	○	
19	4	H31/2/20 ~ 21	本		○	○	
20	1 東前第二土地区画 4 街区 4	H30/8/2	試	個人住宅建築	○	○	
20	2	H31/1/24	立		-	○	
21	東前第二土地区画 64 街区 12	H31/1/17	試	個人住宅建築	-	○	
22	東前第二土地区画 63 街区 1	H31/2/26	試	個人住宅建築	○	○	

第3章 調査概要及び基本層序

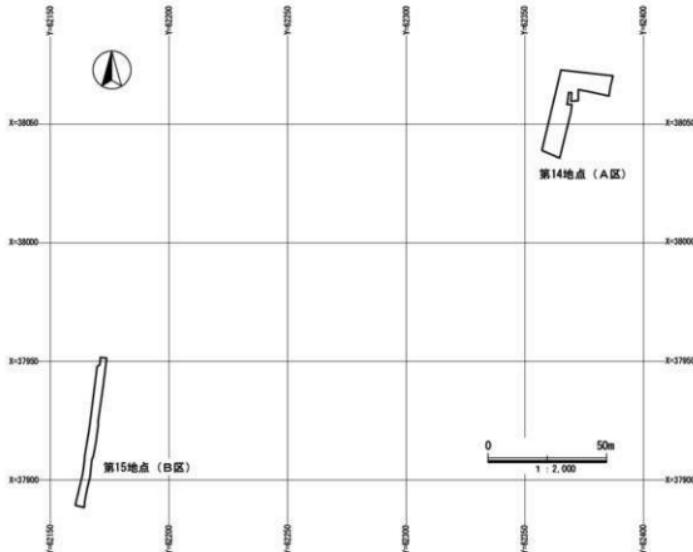
第1節 調査の概要（第4図）

今回の東前原遺跡調査地点は、第14地点（A区）、第15地点（B区）となる（第2図）。どちらの調査区も後世の耕作などの擾乱を受けており、遺構確認面がローム漸移層近くになるものが多く、遺存状態の良好な遺構は少ない。また、調査区外に続く遺構も多い。

検出された遺構はA区・B区どちらも、奈良・平安時代と中世以降の二時期が主体となることが確認された。

第14地点では、古墳時代後期が推定される堅穴建物跡1軒、奈良平安時代の堅穴建物跡3軒、中世以降が推定される土坑42基、溝跡1条、性格不明遺構1基が検出されている。

第15地点では、奈良平安時代の遺構として堅穴建物跡3軒、中世以降が推定される土坑27基、ピット12基が検出されている。



第4図 東前原遺跡第14・15地点位置図

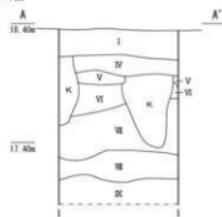
第2節 基本層序

第14地点 (A区) (第5図/図版2)

基本層序は3B区の調査区南壁に設定した。

I層は表土・碎石層, II・III層は削平されている。IV層は褐灰色のローム漸移層, V層は明黄褐色のソフトローム層, VI層は明黄褐色のハードローム層, VII層はVI層よりさらに縮りのあるハードローム層, VIII層は明黄褐色の鹿沼層, IX層は黄色のハードローム層である。

A区



基本層序土質説明

I層	表土・碎石
IV層	10TB6/1 褐灰色土：しまり強い、粘性なし。ローム漸移層
V層	10TB6/8 明黄褐色土：しまり強い、粘性なし。ソフトローム層
VI層	10TB6/8 明黄褐色土：しまり強い、粘性なし。ハードローム層
VII層	10TB6/8 明黄褐色土：しまり強い、粘性なし。ハードローム層
VIII層	2.597/6 明黄褐色土：しまり強い、粘性なし。鹿沼層
IX層	2.597/8 黄褐色土：しまり強い、粘性なし

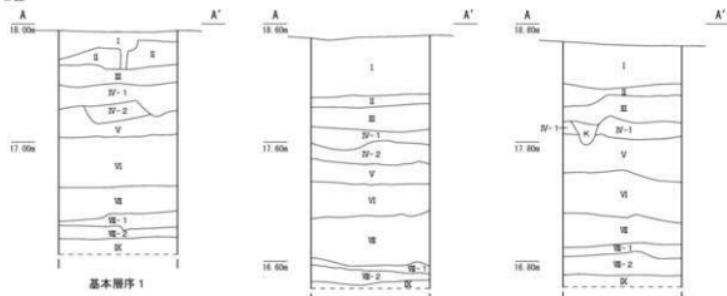
第5図 A区基本層序図

第15地点 (B区) (第6図/図版2)

基本層序1を8B区, 基本層序2を5B区, 基本層序3を2C区に設定した。

I層は表土・碎石層, II層は黄灰褐色, III層は黒褐色土, IV層はぶい黄橙色のローム漸移層で2層に区分される。V層は明黄褐色のソフトローム層, VI層は明黄褐色のハードローム層, VII層は明黄褐色の鹿沼層で2層に区分される。IX層は黄色のローム層である。

B区



第6図 B区基本層序図

基本層序1・2・3土質説明

I	表土・碎石
II	2.305/1 黄灰褐色土：しまり強い、粘性なし
III	2.305/1 黑褐色土：しまりあり、粘性なし
IV-1	10TB6/3 ぶい黄橙色土：褐灰色ブロック多量。ローム漸移層。しまりあり。粘性なし
IV-2	10TB6/3 ぶい黄橙色土：褐灰色ブロック中量。ローム漸移層。しまりあり。粘性なし
V	10TB6/8 明黄褐色土：ソフトローム層。しまりあり。粘性なし
VI	10TB6/8 明黄褐色土：ハードローム層。しまり強い。粘性なし
VII-1	2.537/6 明黄褐色土：鹿沼層。しまり強い。粘性なし
VII-2	2.217/6 明黄褐色土：鹿沼層。しまり強い。粘性なし
IX	2.597/8 黄色土：しまり強い。粘性なし

第4章 A区（第14地点 第2次調査区）遺構と遺物

第1節 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第8・12図/第3・22表/図版2・22）

位置・重複関係 2・3 Bグリッドに位置する。第10号土坑に切られる。南東部分は調査区外に続く。後世の擾乱により床面のみ確認された。

形態 平面形は不整方形を呈し、主軸方位はN-7°-Wである。規模は長軸277cm、短軸273cmを測る。遺構北辺にカマドが検出され、約70cm突出している。壁下に周溝はなく、床面は荒掘りを整地した直床で平坦である。硬化面は西側の一部で確認された。柱穴は検出されなかった。

遺物 土師器甕52点、須恵器坏9点・高坏1点・甕2点が出土し、このうち4点を図示した。1は須恵器の坏で、ヘラ切の底部から僅かに外反して口縁部に至る。9世紀前半のものと推定した。2は須恵器の高坏で、坏部内面はヘラ削りにより、凹凸がみられる。3は須恵器の甕で、体部片で幅広の板目叩きがある。4は瓦質の火鉢の口縁部で肩部に雲文の刻印がある。19世紀前半と推定される。上部覆土中から混入したものである。

時期 廃絶時期は、須恵器の年代から平安時代（9世紀前半頃）と推定される。

第2号竪穴建物跡（第9・13図/第4・22表/図版2・3・22）

位置・重複関係 2 Cグリッドに位置し、南側の3分の2は調査区外に続く。東側の一部は床面まで擾乱が及んでいる。

形態 平面形は方形と推定され、主軸方位はN-3°-Eである。検出部分での平面規模は長軸309cm、短軸114cmを測る。壁下に周溝はなく、壁はやや外形して立上り、深さは約50cmを測る。遺構北辺中央や東側にカマドが検出される。袖部はロームを20～30cm掘り残し、煙道部は北辺より20cm張出している。床面は平坦である。硬化面はカマド前庭付近で確認された。柱穴は確認されていない。

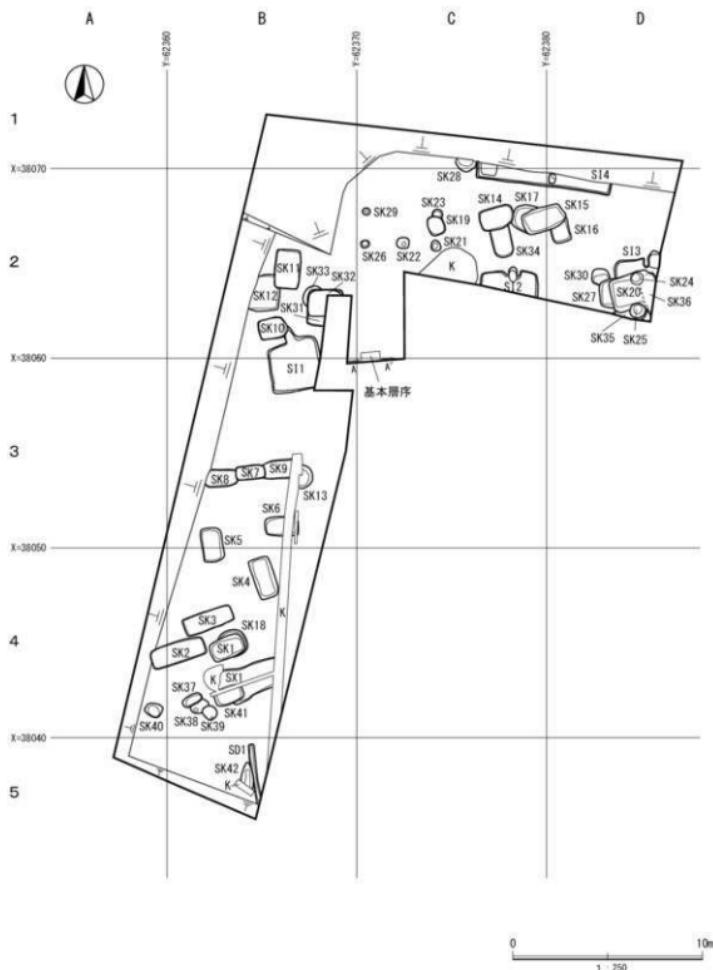
遺物 土師器坏1点・甕21点、須恵器坏1点・高坏1点・蓋1点・甕2点、土師質土器土鍋1点が出土し、このうち3点を図示した。1は須恵器坏で、底部ヘラ切後ヘラナデ仕上げ、中央が突出している。内面はほぼ平坦で、立ち上りは僅かに窪んでいる。2は須恵器高坏脚部で4孔の透かしをもつ。3は土師器甕で、体部外面に輪積痕が残る。1が8世紀後半から9世紀初頭、2が8世紀前半と推定される。

時期 廃絶時期は、須恵器の年代から平安時代（9世紀前半頃）と推定される。

第3号竪穴建物跡（第10図/第22表/図版3）

位置・重複関係 2 Dグリッドに位置し、東側で調査区外に続く。第20号土坑、第24号土坑、第25号土坑、第35号土坑、第36号土坑に切られている。

形態 平面形は方形と推定され、主軸方位はN-3°-Wである。規模は不明であるが、カマドの位置から3m程の小型の竪穴建物跡と推定される。壁下に周溝はなく、やや開口



第7図 A区（第14地点第2次調査区）全体図

して立上り、深さは25cmを測る。カマドは北辺に位置し、火床部から左袖部を確認した。床面はロームの直床で、柱穴と硬化面は未検出である。

遺物 土師器甕63点、須恵器甕2点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、出土遺物の年代から奈良・平安時代（8～9世紀頃）と推定される。

第4号壁穴建物跡（第11・14図/第5・6・22表/図版4・23）

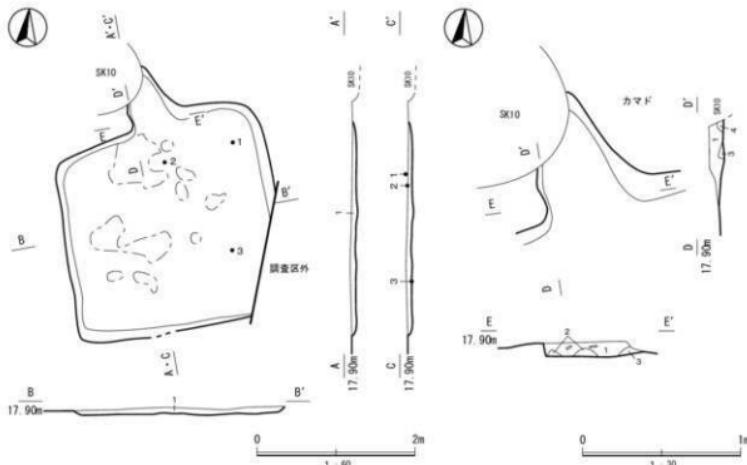
位置・重複関係 1・2 C・Dグリッドに位置し、遺構の主体は北側の調査区外である。主軸方位はN-8°-Eである。

形態 平面形は方形と推定され、検出部分での規模は、長軸となる東西方向が684cm、短軸となる南北方向が83cm以上となる。壁下に周溝はなく、やや開口して立ち上る。床面は壁下周囲の幅約20cm以外が硬化していた。柱穴は未検出であるが、南辺中央壁下付近に浅い小穴が確認され、入り口の施設に関わるものと推定される。

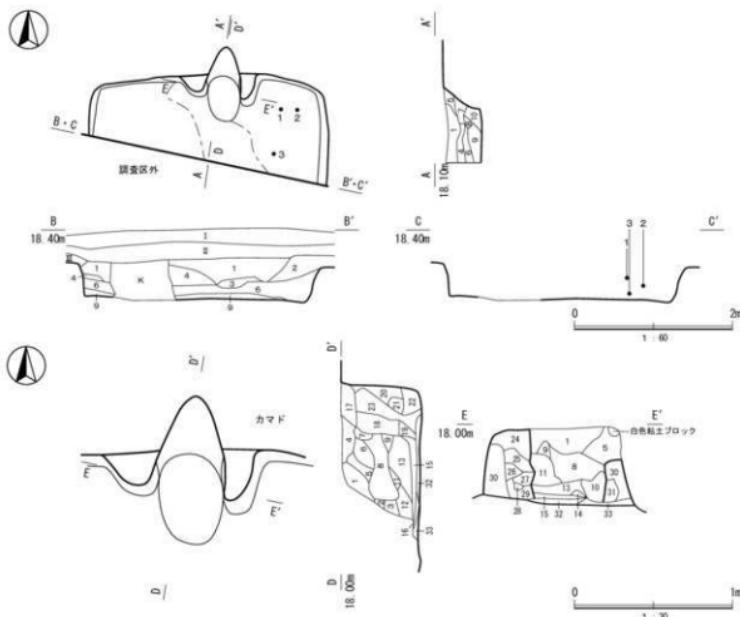
遺物 土師器坏2点、須恵器甕15点、鉄製品鎌1点が出土し、このうち4点を図示した。

1は土師器坏で、やや大振りで平底の底部から内湾して開き、口縁部は直立する。口縁部外面と内面に漆の付着が確認される。2は須恵器坏で、厚めの底部から外傾して立上り口縁部が外反する。底部はヘラ切で不定方向のヘラナデ仕上げである。3は須恵器坏で、底部はヘラ切でヘラナデ仕上げである。4は鉄製鎌、刃部は推定20cm、柄の接合部は下半部が四角、上半部がコの字状になっている。

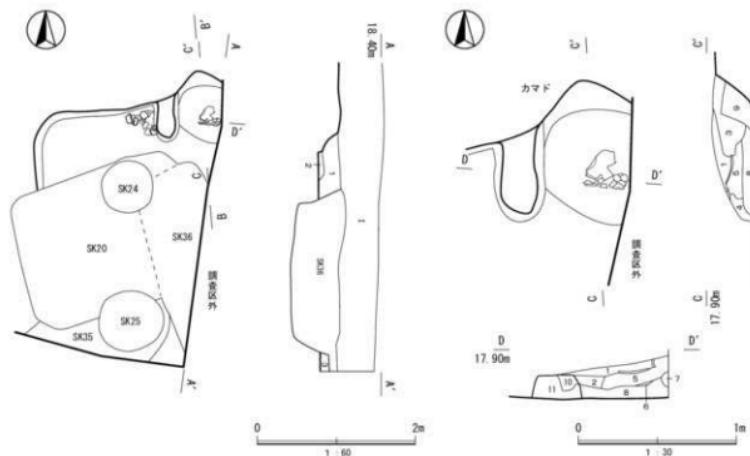
時期 廃絶時期は、遺構の推定形状が大型であることから古墳時代（7世紀後半～8世紀前半頃）と推定される。



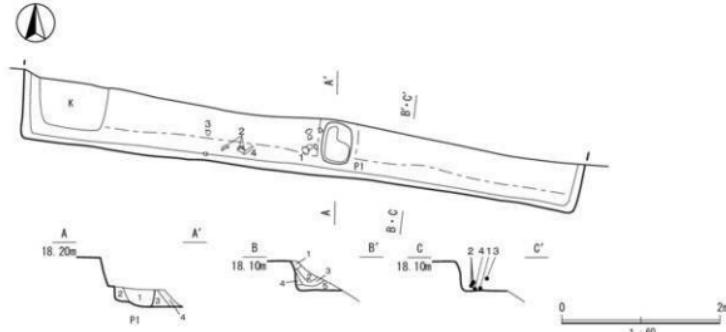
第8図 第1号壁穴建物跡実測図



第9図 第2号竪穴建物跡実測図



第10図 第3号竪穴建物跡実測図



第11図 第4号竪穴建物跡測図

第1号管穴植物群土壤剖面

- 1 10月5/3 にぶい黄褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。酸性なし
酸：呈酸性強度弱めで、ごく低濃度。

黑1号盤六進物語方々下王將説明
1-140305.03 一ノ瀬龍也著

- | | | |
|---|---------|--|
| 1 | 101R6/2 | 灰黃褐色土：コーム細土多量、細粒砂土少額。洪氾性多量、しまりあり。粘性なし。 |
| 2 | 101R5/2 | 灰黃褐色土：風化粘土多ブロック中層。しまりあり。粘性なし。 |
| 3 | 101R6/2 | 灰黃褐色土：コーム粘土多量、しまりあり。粘性なし。 |
| 4 | 101R6/8 | 明黃褐色土：コーム土体、灰黃褐色大ブロック中層。しまりあり。粘性なし。 |

第二章 植物的水肥管理

- | | | |
|-------------|------------------------|---|
| 1. 1008W-1 | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | ローム粒子混入。
しまりあり。
堅性なし。 |
| 1. 1008W-1' | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | ローム粒子多量。
しまりあり。
堅性なし。 |
| 3. 1008E-1 | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | ローム粒子多量。
底色白灰色土より少中量。
しまりあり。
堅性なし。 |
| 4. 1005E-2 | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | ローム粒子混入。
しまりあり。
堅性なし。 |
| 2. 535/1 | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | 底色白灰色土より少中量。
しまりあり。
堅性なし。 |
| 6. 1003E-2 | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | ローム粒子少。ローム粒子多量。
しまりあり。
堅性なし。 |
| 7. 535/2 | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | ローム粒子少。底色白灰色土より少中量。
しまりあり。
堅性なし。 |
| 10. 1004/1 | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | 底色暗褐色より少中量。
しまりあり。
堅性なし。 |
| 10. 1003/1 | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | ローム粒子少。
しまりあり。
堅性なし。 |
| 10. 1003/2 | 灰黑色土；
棕色土；
棕褐色土； | ローム粒子少。
しまりあり。
堅性なし。 |

第2号壁穴建物跡カマド土層説明

- 1 10195/2 黄褐色土：ローム粘子多量、灰白色粘子多量。しまりあり。粘性なし。

2 10196/2 黄褐色土：ローム粘子多量、灰白色粘子が基面に混入。しまりあり。粘性なし。

3 10195/1 帽状灰色土：ローム粘子多量、灰白色粘子少量。しまりあり。粘性なし。

2. 2.5/1/2 帽状灰色土：ローム粘子多量、灰白色粘子少量。しまりあり。粘性なし。

5 10194/1 帽状灰色土：ローム粘子多量、灰白色粘子多量。しまりあり。粘性なし。

6 10194/2 帽状灰色土：ローム粘子中量、灰白色粘子多量。下部は白色土と灰白色土を交互に層状に積み重ねる。

7 10193/1 黑褐色土：ローム粘子多量、灰白色土とブロック中層・灰白色粘子多量。しまりあり。粘性なし。

8 10195/3 黑褐色土：ローム粘子多量。しまりあり。粘性なし。

2. 2.5/2/2 黑褐色土：ローム粘子中量、灰白色粘子大ブロック中層・灰白色粘子少量。しまりあり。粘性なし。

10 10198/1 灰白色土：灰白色粘子大ブロック中層。しまりあり。粘性なし。

11 10198/1 帽状灰色土：白土粘子中量、灰白色粘子少量。しまりあり。粘性なし。

12. 2.5/1 黄褐色土：ローム粘子多量、灰白色粘子少量。しまりあり。粘性なし。

13 10198/3 灰白色土：白土粘子主層、閑閑灰色大ブロック中層。しまりあり。粘性なし。

14 10195/1 帽状灰色土：灰白色粘子中量。しまりあり。粘性なし。

15 10195/3 帽状灰色土：白土粘子多量。穀物灰中量。しまりあり。粘性なし。

5. 5/4/2 明褐色地被土：灰色砂質大ブロック多量。しまりあり。粘性なし。

2. 2.5/1/5 黄褐色土：灰白色粘子少量・中量。しまりあり。粘性なし。

10 10195/2 黄褐色土：ローム粘子多量、灰白色粘子大ブロック多量。しまりあり。粘性なし。

19 10198/1 帽状灰色土：ローム大ブロック中層、褐色砂質大ブロック中層。しまりあり。粘性なし。

20 10197/1 灰白色砂質土：白土大ブロック中層、灰白色粘子大ブロック中層。しまりあり。粘性なし。

21 10198/4 灰白色砂質土：白土大ブロック中層。しまりあり。粘性なし。

- | | | |
|----|---------|--|
| 22 | 10TRB/1 | 灰白色土：灰白色粘土体。灰色砂質大ブロック中量。しまりあり。
粘性なし。 |
| 23 | 10TRB/1 | 黒褐色土：ローム大ブロック少量。ローム粘子多量。
灰白粘土体中量。しまりあり。堅性なし。 |
| 24 | 10TRB/1 | 灰黒褐色土：ローム粘子少量。褐化粘子少量。民间色粘子中量。
ローム大ブロック少量。しまりあり。堅性なし。 |
| 25 | 10TRB/1 | 灰白色土：灰白色粘土体。黑色砂質少量。民間色粘子中量。
ローム大ブロック少量。しまりあり。堅性なし。 |
| 26 | 10TRB/1 | 黒褐色土：ローム粘子多量。しまりあり。粘性なし。
ローム大ブロック少量。しまりあり。堅性なし。 |
| 27 | 10TRB/1 | 灰褐色土：ローム大ブロック少量。ローム粘子少量。しまりあり。
粘性なし。 |
| 28 | 10TRB/1 | 黒褐色土：ローム大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。 |
| 29 | 10TRB/1 | 灰白色土：灰白色粘土体。黑色砂質少量。ローム大ブロック少量。
ローム大ブロック少量。化成粘子中量。
民間色粘子少量。ローム大ブロック少量。
しまりあり。堅性なし。 |
| 30 | 10TRB/1 | 灰白色土：灰白色粘土体。小粒粘子多量。礫（5mm）少量。
しまりあり。堅性なし。 |
| 31 | 2.5T/5 | 黒褐色土：ローム大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。 |
| 32 | 3.2T/2 | 褐化粘子：ローム大粘子少量。他土種多量。灰白粘土体中量。
しまりやや少量。粘性なし。 |
| 33 | 2.5T/7 | 黄色砂質土：黄色砂質土中量。しまりあり。堅性なし。 |

第3号駁穴建物跡土層説明

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | BOY03/1 | 黒褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。 |
| 2 | BOY05/2 | 灰黃褐色土：灰褐色土大ブロック多量。しまりあり。粘性なし。 |
| 3 | BOY06/4 | にぶい黄褐色土：ローム粒子多量。黒褐色土大ブロック少量。
しまりあり。粘性なし。 |

第3号壁穴建物跡カラド土層説明

- 1 100mm/2 灰黃褐色土：ローム粒子多量。灰白色粘土粒子多量。しまりあり。

2 100% /1 颜灰色土:白.../

- | | | |
|---|-----------|-----------------------------------|
| 3 | ± 5YR 6/1 | 黄灰色土：灰白色粘土粒子多量。しまりあり。粘性なし |
| 4 | 10YR 4/1 | 獨灰褐色土：灰白色粘土粒子多量。しまりあり。粘性なし |
| 5 | 10YR 5/1 | 獨灰褐色土：ローム粒子多量。灰白色粘土大ブロック中量。しまりあり。 |

9 19985/1 鄭灰色土：日一

- 7 10YRH/1 灰白色土：灰白色粘土主体、褐灰色土大ブロック中層。しまりあり、粘性なし

- | | | |
|----|---------|----------------------------------|
| 9 | B0THB-8 | 明黄色土：ローム主体、褐灰色大ブロック中量。しまりあり、粘性なし |
| 10 | B0TRB/1 | 灰白色土：灰白色粘土主体。しまり強いし、粘性なし |
| 11 | B0TR4/1 | 褐灰色土：灰白色粘土大ブロック中量。しまりあり、粘性なし |

第4号整穴植物土质说明

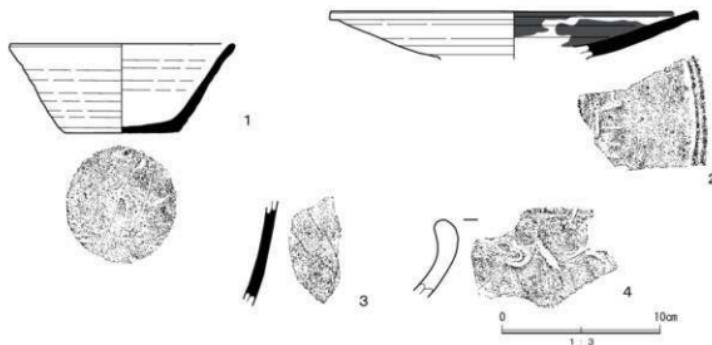
- | | | |
|---|----------|--------------------------|
| 1 | 2.5YR4/2 | 難炭黄色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし |
| 2 | 10YR4/2 | 尾黄褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし |
| 3 | 10YR4/1 | 難灰色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし |
| 4 | 10YR4/2 | 尾黄褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし |

編
第四卷上·第二

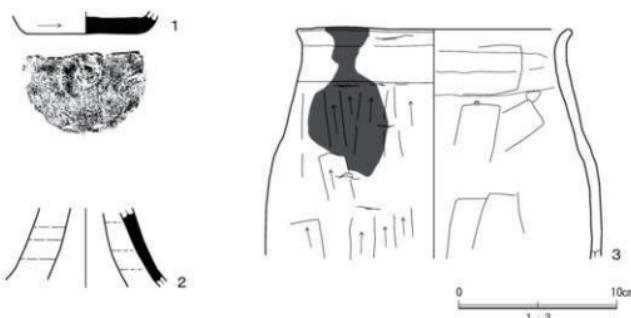
- 1 BGRS/2 灰黄褐色土：ローム粒子多量。しまりあり、粘性なし。

2 1000K/1 灰白色土：灰白

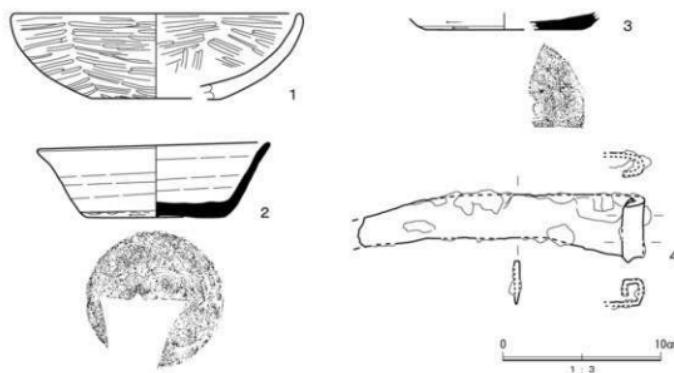
- | | | |
|---|---------|--|
| 3 | BOYBL/2 | 少量。しまりあり。粘性なし
灰黄褐色土：コーム粒子中混。灰白色粘土大ブロックを下部に含む。
しまりあり。粘性なし |
| 4 | BOYBL/3 | 無地無木。コーム無し。しまりなし。粘性なし |



第12図 第1号竪穴建物跡出土遺物



第13図 第2号竪穴建物跡出土遺物



第14図 第4号竪穴建物跡出土遺物

第3表 第1号壇穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	紹土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	須恵器	杯	(10.0)	5.1	4.8	褐色から灰褐色	長石・石英多量、斜状鉱物少量、小穂	酸化焼成	ロクロ成型、体部下端へフリソード。内底面中央部が盛む。底部ハラ切後へ焼成	9c前	底部外面「A」ヘラ記号 木葉下窓跡群産
2	須恵器	高杯	(23.0)	—	[3.0]	灰色	長石・石英、斜状鉱物	良好	ロクロ成型、外底部内面へフリソード。内底面に凹凸がある。	8c後～9c前	内面環付着 木葉下窓跡群産
3	須恵器	甕	—	—	—	灰褐色	長石・石英粒少量、黑色粒少量	普通	集塊部片。幅1.3cmの板目叩き	8c代	
4	瓦質土器	火鉢	—	—	—	淡黒色	長石・石英粒や多い、やや灰	口縁部内面へフリソード。内面横撫口縁部外面に畫文の型押しあり	19c前	在地産	

第4表 第2号壇穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	紹土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	須恵器	杯	—	7.8	—	灰褐色	長石・石英少量、斜状鉱物少量、雲母微量	やや不良	底部辺縁、ロクロ成型、体部下端へハラ切り、外底面はハラ切で花びら字になり、中央が突出している。	8c後～9c前	
2	須恵器	高杯	—	—	—	灰色	長石粒少量、黑色粒少量	良好	ロクロ成型、高部の脚部	8c前	外面自然輪 木葉下窓跡群産
3	土師器	甕	(17.0)	—	—	褐色	長石・石英・雲母小穂	普通	輪縁成形、外面上に輪縁痕が観察される。口辺部内面はコヨナゲ、体部内面はナガナギ、外面はケダ	8c代	外面環付着 在地産

第5表 第4号壇穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	紹土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	土師器	杯	(18.0)	(8.0)	(5.4)	褐色	長石・石英・雲母・黑色粒+	良	体部内面へフリソード。外面はハラ切後矢張り羽状に内面はコヨナゲ後不定方向に焼けている。底面外側もハラ切後矢張りへフリソード。	8c中	外表面縁部と内面は漆塗り
2	須恵器	杯	14.4	8.7	4.7	黄褐色	長石・石英・雲母・黑色粒+	良	ロクロ成型、底面斜面花弁状へフリソード。内面はコヨナゲ後矢張り方向へナガナギ。	8c3/4～8c4/4	
3	須恵器	杯	—	(10.0)	—	灰色	長石・石英・雲母・黑色粒少量	良	体部内面はロクロナガナギ、外表面下端手打ちハラ切り。底面回転へフリソード。	8c代	

第6表 第4号壇穴建物跡出土金属製品観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	特徴	推定年代	備考
			長さ	幅	厚さ					
4	鉄製品	鍔	(18.0)	2.9	0.3	(78)	鉄	柄の接合部の鋲孔が方形	—	

第2節 土坑

第1号土坑（第15図/図版4）

位置・重複関係 4Bグリッドに位置し、第18号土坑を切っている。主軸方位はN-63°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、平面規模は長軸204cm、短軸113cm、深さ25cmを測る。

遺構の壁面から底部に、厚さ12cm程の灰白色粘土が貼り付けられるように確認された。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第2号土坑（第15図/第22表/図版4・5）

位置・重複関係 4A・Bグリッドに位置する。主軸方位はN-71°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、平面規模は長軸302cm、短軸115cm、深さ28cmを測る。

遺構の壁面から底部に、厚さ5～10cm程の灰白色粘土が貼り付けられるように確認された。

遺物 須恵器坏 1 点, 瓦質土器鍋 1 点を出土したが, 図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は, 出土遺物の年代から中世以降と推定される。

第3号土坑 (第15図/図版5)

位置・重複関係 4Bグリッドに位置する。主軸方位はN-72°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し, 平面規模は長軸284cm, 短軸105cm, 深さ17cmを測る。

遺構の底部に, 厚さ5~15cm程の灰白色粘土が貼り付けられるように確認された。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は, 遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第4号土坑 (第15図/第22表/図版5)

位置・重複関係 4Bグリッドに位置する。主軸方位はN-17°-Wである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し, 平面規模は長軸226cm, 短軸122cm, 深さ36cmを測る。

遺構の壁面から底部に, 厚さ5cm程の灰白色粘土が貼り付けられるように確認された。

遺物 須恵器高台坏 1 点・甕 1 点を出土したが, 図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は, 遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第5号土坑 (第15図/第22表/図版5・6)

位置・重複関係 3・4Bグリッドに位置する。主軸方位はN-9°-Wである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し, 平面規模は長軸180cm, 短軸112cm, 深さ43cmを測る。

遺物 土師器甕 5 点, 須恵器坏 2 点・高台付坏 1 点・蓋 1 点を出土したが, 図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は, 遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第6号土坑 (第15図/図版6)

位置・重複関係 3Bグリッドに位置する。東側は擾乱されている。主軸方位はN-88°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し, 平面規模は長軸186cm, 短軸112cm, 深さ16cmを測る。

遺構の壁面から底部に, 厚さ2~4cm程の灰白色粘土が貼り付けられるように確認された。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は, 遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第7号土坑 (第15図/第22表/図版6)

位置・重複関係 3Bグリッドに位置する。第8号土坑, 第9号土坑を切っている。主軸方位はN-87°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し, 検出部分での平面規模は長軸155cm以上, 短軸84cm, 深さ6cmを測る。遺構の底部から, 厚さ2cm程の灰白色粘土が貼り付けられるように確認された。

遺物 繩文土器 1 点, 須恵器坏 1 点・甕 1 点を出土したが, 図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は, 遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第8号土坑（第16・19図/第7・22表/図版6・23）

位置・重複関係 3Bグリッドに位置する。東側は第7号土坑に切られ、西側は調査区外へ続く。主軸方位はN-87°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、検出部分での平面規模は長軸183cm以上、短軸107cm、深さ15～20cmを測る。遺構の底部から、厚さ4cm程の灰白色粘土が貼り付けられるよう確認された。

遺物 須恵器坏1点・短頸壺1点が出土し、このうち2点を図示した。1は須恵器坏で、口縁部から体部片で口縁部がやや外反する。外面に判読不明の墨書がある。2は須恵器短頸壺で、肩部片である。1は8世紀第4四半期、2は8世紀後半と推定した。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第9号土坑（第16図/第22表/図版7）

位置・重複関係 3Bグリッドに位置する。西側を第7号土坑に切られ、東側は擾乱されている。主軸方位はN-87°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、検出部分での平面規模は長軸150cm以上、短軸108cm、深さ10～15cmを測る。遺構の底部から、厚さ4cm程の灰白色粘土が貼り付けられるよう確認された。

遺物 須恵器坏1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第10号土坑（第16・19図/第8・22表/図版7・23）

位置・重複関係 2Bグリッドに位置する。第1号竪穴建物跡を切っている。主軸方位はN-77°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、平面規模は長軸152cm、短軸110cm、深さ76cmを測る。

遺物 土師器坏1点・甕11点、須恵器坏4点・甕5点が出土し、このうち1点を図示した。1は、須恵器甕の肩部片である。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第11号土坑（第16図/第22表/図版7）

位置・重複関係 2Bグリッドに位置する。第12号土坑を切っている。主軸方位はN-4°-Eである。

形態 平面形は長方形を呈し、平面規模は長軸206cm、短軸133cm、深さ16cmを測る。底面は僅かに擂鉢状になる。

遺物 土師器坏2点・甕2点、須恵器坏2点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第12号土坑（第16図/第22表/図版7・8）

位置・重複関係 2Bグリッドに位置する。第11号土坑に切られ、西側は調査区外へ続く。主軸方位はN-88°-Eである。

第4章 A区 遺構と遺物

形態 平面形は長方形と推定される。検出部分での平面規模は長軸193cm以上、短軸156cm、深さ33cmを測る。

遺物 土師器壺3点・甕4点、須恵器壺7点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第13号土坑（第16図/図版8）

位置・重複関係 3Bグリッドに位置する。西側は搅乱されている。主軸方位はN-88°-Eである。

形態 平面形は円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸123cm、短軸70cm以上、深さ25cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第14号土坑（第16・19図/第9・22表/図版8・23）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。第17号土坑、第34号土坑を切っている。主軸方位はN-80°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、平面規模は長軸133cm、短軸117cm、深さ27cmを測る。

遺物 土師器甕8点、須恵器壺2点・高台付盤1点が出土し、このうち1点を図示した。1は須恵器の高台付盤である。底部ヘラ切後回転ヘラ削りを施し高台を貼り付けている。木葉下産と推定される。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第15号土坑（第16図/第22表/図版8）

位置・重複関係 2C・Dグリッドに位置する。第16号土坑、第17号土坑を切っている。主軸方位はN-70°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、平面規模は長軸227cm、短軸127cm、深さ43cmを測る。

遺物 土師器甕5点、須恵器壺3点・高台付盤1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第16号土坑（第16図/第22表/図版8・9）

位置・重複関係 2Dグリッドに位置する。第15号土坑に切られている。主軸方位はN-10°-Wである。

形態 平面形は隅丸長方形と推定される。検出部分での平面規模は長軸116cm以上、短軸96cm、深さ24cmを測る。

遺物 土師器壺1点・甕2点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第17号土坑（第16図/第22表/図版9）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。第14号土坑、第15号土坑に切られている。主軸方位はN-90°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形と推定される。検出部分での平面規模は長軸107cm以上、短軸95cm、深さ17cmを測る。

遺物 土師器甕5点、須恵器坏5点・蓋1点・甕1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第18号土坑（第16図）

位置・重複関係 4Bグリッドに位置する。第1号土坑に切られている。主軸方位はN-63°-Eである。

形態 平面形はやや不整な円形を呈する。平面規模は長軸154cm、短軸143cm、深さ30cmを測る。遺構の底部から、灰白色粘土が貼り付けられるように確認された。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第19号土坑（第16図/第22表）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。第23号土坑を切っている。主軸方位はN-23°-Wである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、平面規模は長軸104cm、短軸87cm、深さ10cmを測る。

遺物 遺物は土師器甕1点、須恵器坏1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第20号土坑（第17・19図/第10・22表/図版9・23・24）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。第3号竪穴建物跡、第24号土坑、第25号土坑、第27号土坑を切り、第35号土坑、第36号土坑に切られている。主軸方位はN-85°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形と推定される。検出部分での平面規模は長軸225cm以上、短軸183cm、深さ53cmを測る。

遺物 覆土南側から縄文土器1点、土師器坏6点・高台付坏1点・甕15点、須恵器坏5点・甕8点、北側から縄文土器2点、土師器坏3点・甕24点、須恵器坏4点が出土した。縄文土器を除く遺物は、第3号竪穴建物跡に関係する可能性が考えられる。このうち2点を図示した。1は土師器の坏で、内面に赤彩される。7世紀第4四半期から8世紀第1四半期と推定される。2は須恵器の高坏の脚部である。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第21号土坑（第17図/図版9）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。主軸方位はN-54°-Wである。

形態 平面形は不整円形を呈し、平面規模は長軸56cm、短軸48cm、深さ40cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第22号土坑（第17図/図版10）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。主軸方位はN-54°-Wである。

形態 平面形は不整円形を呈し、平面規模は57cm×55cm、深さ38cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第23号土坑（第17・19図/第11・22表/図版10・24）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。第19号土坑を切っている。

形態 平面形は不整円形を呈し、平面規模は63×54cm、深さ54cmを測る。土層の堆積状況から、柱穴と推定される。

遺物 土師器甕1点、須恵器壺1点が出土し、このうち1点を図示した。1は須恵器壺で、8世紀代と推定される。

時期 廃絶時期は、不明である。

第24号土坑（第17・19図/第12・22表/図版10・24）

位置・重複関係 2Dグリッドに位置する。第3号竪穴建物跡を切り、第20号土坑、第36号土坑に切られている。

形態 平面形は円形を呈し、平面規模は65×65cm、深さ44cmを測る。柱穴と推定される。

遺物 土師器壺1点、甕2点が出土し、このうち1点を図示した。1は土師器壺で、丸底から口縁部が直立して立上る。内面口唇部に稜を有する。8世紀第1四半期と推定される。

時期 廃絶時期は、不明である。

第25号土坑（第17図/第22表/図版10）

位置・重複関係 2Dグリッドに位置する。第20号土坑、第35号土坑に切られている。主軸方位はN-23°-Wである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、平面規模は長軸83cm、短軸73cm、深さ60cmを測る。

遺物 土師器壺2点・甕2点、須恵器壺3点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第26号土坑（第17図/第22表/図版11）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。

形態 平面形は円形を呈し、平面規模は45×40cm、深さ32cmを測る。

遺物 土師器甕1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第27号土坑（第17図/図版11）

位置・重複関係 2Dグリッドに位置する。第30号土坑を切り、第20号土坑に切られている。主軸方位はN-87°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、検出部分での平面規模は長軸154cm、短軸68cm以上、深さ44cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第28号土坑（第17図/第22表）

位置・重複関係 1・2 C グリッドに位置する。東は第4号竪穴建物跡を切り、北は調査区外へ続く。主軸方位はN-42°-Wである。

形態 平面形は円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸97cm、短軸80cm以上、深さ21cmを測る。

遺物 須恵器甕1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第29号土坑（第17図）

位置・重複関係 2 C グリッドに位置する。

形態 平面形は円形を呈し、平面規模は42×38cm、深さ14cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第30号土坑（第17図/第22表/図版11）

位置・重複関係 2 D グリッドに位置する。第27号土坑を切っている。主軸方位はN-42°-Wである。

形態 平面形は不整方形を呈し、平面規模は長軸94cm、短軸84cm、深さ77cmを測る。柱穴と推定される。

遺物 土師器壺1点・甕5点、須恵器壺1点・高壺1点・甕2点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第31号土坑（第17図/第22表/図版11）

位置・重複関係 2 B グリッドに位置する。第32号土坑、第33号土坑を切っている。南東は調査区外に続く。主軸方位はN-5°-Eである。

形態 平面形は隅丸方形を呈し、平面規模は194×194cm、深さ17cmを測る。

遺物 土師器壺2点・甕1点、須恵器壺3点を出土したが、近接する第1号竪穴建物跡に関係する可能性があり、本遺構に伴うものではないと考えられる。図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第32号土坑（第17図/第22表/図版11）

位置・重複関係 2 B グリッドに位置する。第33号土坑を切り、第31号土坑に切られる。南東は調査区外に続く。主軸方位はN-85°-Eである。

形態 平面形は隅丸方形を呈し、平面規模は183×182cm、深さ32cmを測る。

遺物 土師器甕2点を出土したが、近接する第1号竪穴建物跡に関係する可能性があり、本遺構に伴うものではないと考えられる。図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第33号土坑（第17図/図版11・12）

位置・重複関係 2Bグリッドに位置する。第31号土坑、第32号土坑に切られている。主軸方位はN-45°-Eである。

形態 平面形は不整円形を呈し、平面規模は120×110cm、深さ130cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第34号土坑（第18図/第22表/図版12）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。第14号土坑に切られている。主軸方位はN-12°-Wである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、平面規模は長軸200cm、短軸102cm、深さ36cmを測る。

遺物 土師器坏1点・甕6点、須恵器坏1点・高台付坏2点・甕1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第35号土坑（第18図/図版12）

位置・重複関係 2Dグリッドに位置する。第20号土坑、第36号土坑に切られ、第3号堅穴建物跡、第25号土坑を切っている。南側は調査区外へ続く。主軸方位は不明。

形態 平面形は不整円形と推定されるが、残存部分が少なく平面規模も不明である。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第36号土坑（第18・19図/第13・22表/図版12・24）

位置・重複関係 2Dグリッドに位置する。第3号堅穴建物跡と第24号土坑、第35号土坑を切り、第20号土坑に切られる。東側は調査区外へ続く。主軸方位はN-30°-Wである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、検出部分での平面規模は長軸200cm以上、短軸123cm、深さ72cmを測る。

遺物 土師器坏1点、須恵器蓋2点が出土し、全てを図示した。1は土師器坏で、内外面に赤彩が施される。2は須恵器蓋で、摘みは欠損する。8世紀第1四半期と推定される。

3は須恵器蓋である。宝珠摘みが付く。8世紀第1四半期以前と推定される。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第37号土坑（第18・19図/第14・22表/図版12・24）

位置・重複関係 4Bグリッドに位置する。第38号土坑を切っている。主軸方位はN-65°-Eである。

形態 平面形は長楕円形を呈し、平面規模は長軸107cm、短軸54cm、深さ33cmを測る。

遺物 土師器高台付坏1点、土師質土器内耳鍋3点が出土し、このうち3点を図示した。1～3は土師質土器内耳鍋である。15世紀代と推定される。

時期 廃絶時期は、出土遺物の年代から中世以降と推定される。

第38号土坑（第18・20図/第15・22表/図版12・24）

位置・重複関係 4 B グリッドに位置する。第37号土坑、第39号土坑に切られている。主軸方位はN-65°-Eである。

形態 平面形は梢円形を呈し、平面規模は長軸97cm、短軸74cm、深さ25cmを測る。

遺物 土師質土器鍋1点が出土し、図示した。1は土師質土器鍋である。15世紀前半と推定される。

時期 廃絶時期は、出土遺物の年代から中世以降と推定される。

第39号土坑（第18・20図/第16・22表/図版12・25）

位置・重複関係 4 B グリッドに位置する。第38号土坑を切る。主軸方位はN-83°-Eである。

形態 平面形は不整円形を呈し、平面規模は長軸75cm、短軸67cm、深さ54cmを測る。

遺物 繩文土器1点、土師器坏1点、須恵器高坏1点が出土し、このうち1点を図示した。1は縄文土器の口縁部で、縄文時代中期である。

時期 廃絶時期は、遺構の切り合いかから、中世以降と推定される。

第40号土坑（第18図/第22表）

位置・重複関係 4 A グリッドに位置する。主軸方位はN-90°-Eである。

形態 平面形は不整方形を呈し、平面規模は長軸80cm、短軸70cm、深さ33cmを測る。

遺物 須恵器坏3点・甕3点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第41号土坑（第18・20図/第17・22表/図版13・25）

位置・重複関係 4 B グリッドに位置する。第1号性格不明遺構を切る。南側は東西に向かう横切るように帶状に擾乱される。主軸方位はN-56°-Eである。

形態 平面形は隠丸長方形を呈し、平面規模は長軸154cm、短軸100cm、深さ19cmを測る。

遺物 土師器高台付坏1点、須恵器高台付坏1点・甕1点、土師質土器鍋1点が出土し、このうち3点を図示した。1は土師器坏の底部から高台部である。貼付け高台が三角形を呈し、外側が直立するため鉢や皿の可能性もある。10世紀初頭と推定される。2は須恵器甕で、外側に縦方向の板目叩きが見られる。木葉下窯産と推定される。3は土師質土器鍋である。口縁部が短く古い様相を有する。

時期 廃絶時期は、出土遺物の年代から中世以降と推定される。

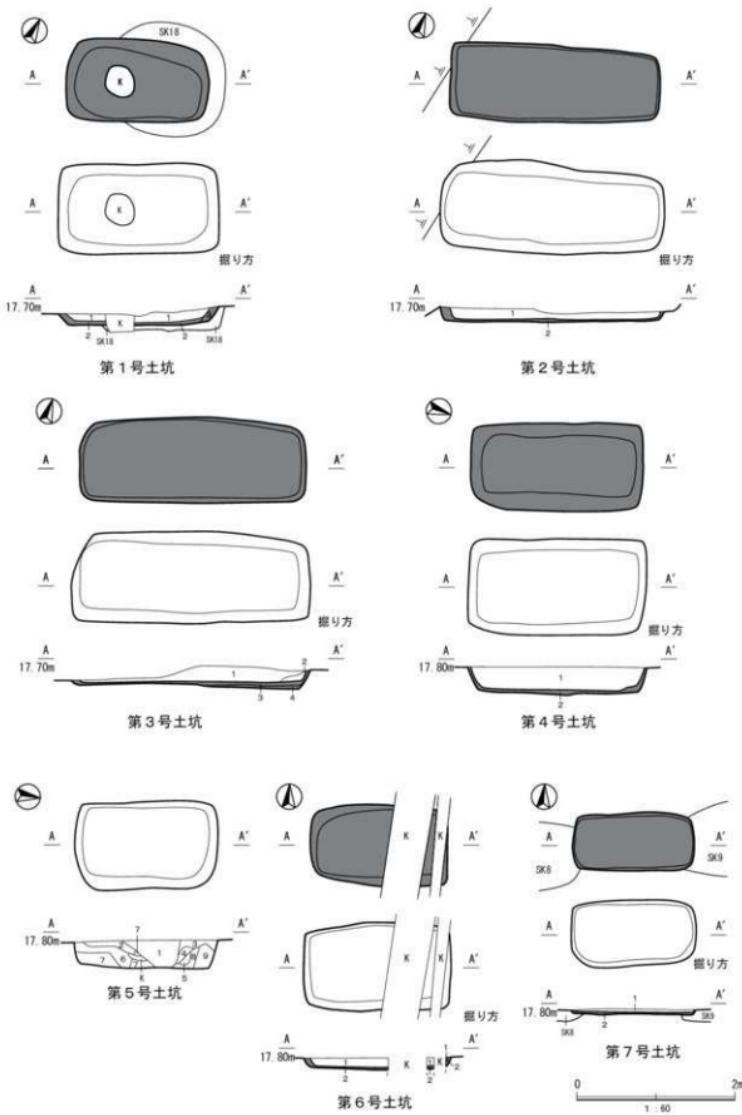
第42号土坑（第18・20図/第18・22表/図版13・25）

位置・重複関係 5 B グリッドに位置する。南側は調査区外へ続く。主軸方位はN-4°-Eである。

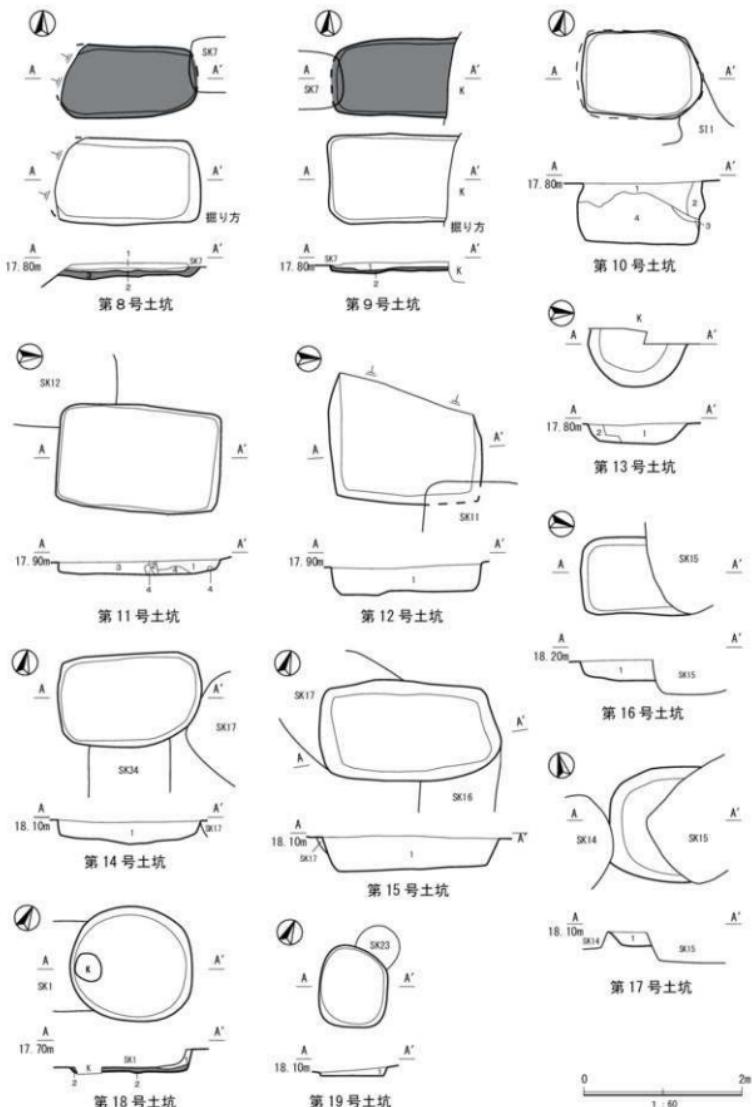
形態 平面形は溝状を呈し、検出部分での平面規模は長軸150cm以上、短軸67cm、深さ48cmを測る。

遺物 土師器坏3点・甕5点、須恵器坏2点・甕2点、磁器1点が出土し、このうち1点を図示した。1は肥前系の染付碗である。18世紀代と推定される。

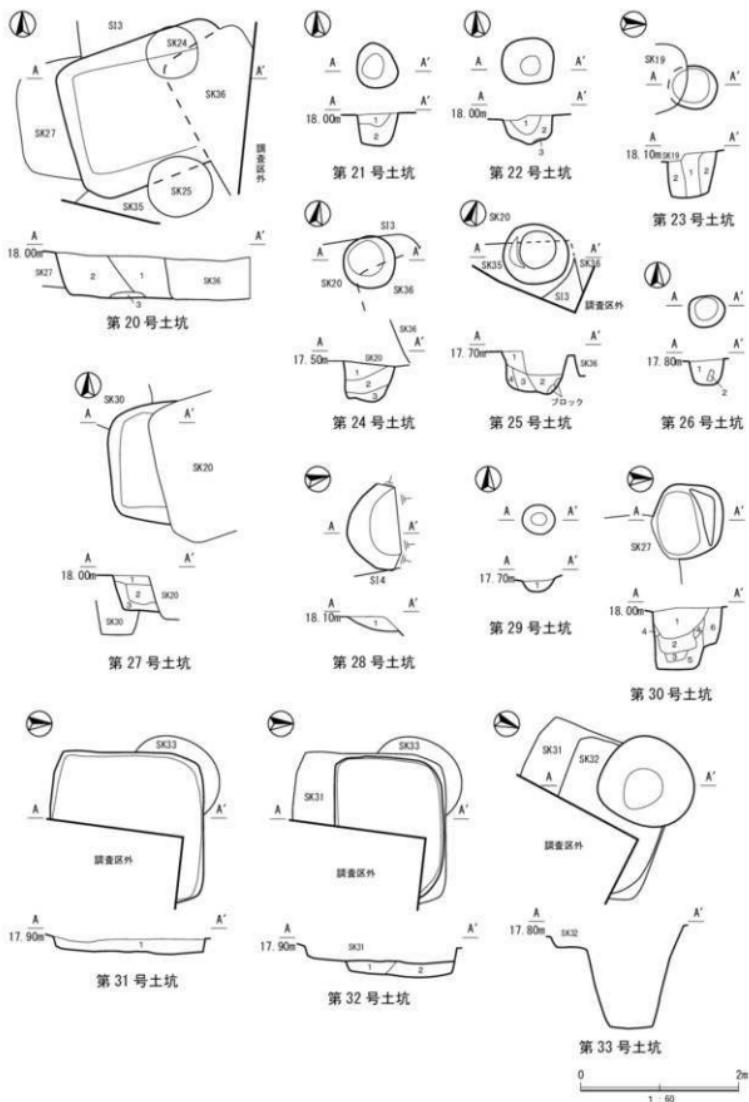
時期 廃絶時期は、出土遺物の年代から近世以降と推定される。



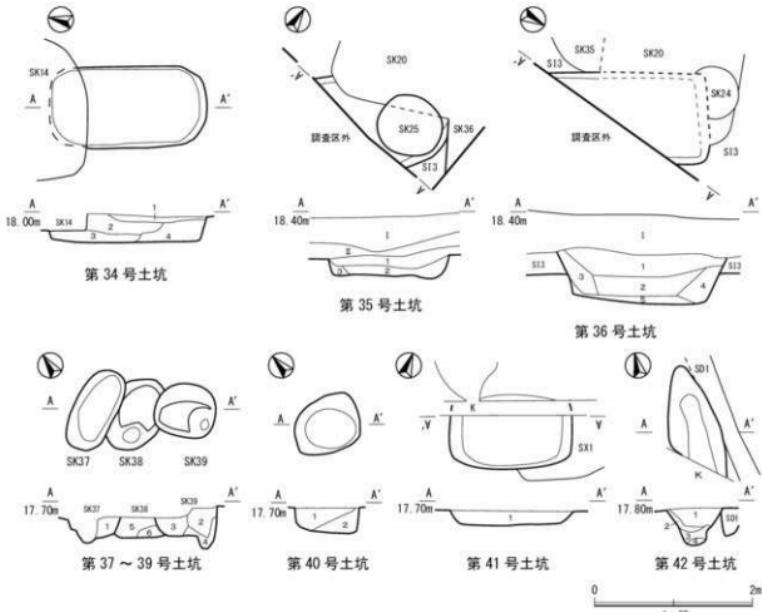
第15図 第1～7号土坑実測図



第16図 第8～19号土坑実測図



第17図 第20～33号土坑実測図



第18図 第34～42号土坑実測図

第1号土坑土境説明

- 1 10105/3 にぶい黄褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 2 56/0 灰色土；灰褐色土主体。にぶい黄褐色アロック中量。しまり強い。粘性なし。
- 3 10105/2 黄褐色土；ローム粒子多量。灰白色粘土子多量。しまりあり。粘性なし。

第2号土坑土境説明

- 1 10105/3 にぶい黄褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 2 58/0 灰白褐色土；灰白色粘土子中量。しまりあり。粘性なし。

第4号土坑土境説明

- 1 10105/3 にぶい黄褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 2 58/0 灰白褐色土；灰白色粘土子中量。しまりあり。粘性なし。
- 3 58/0 灰白褐色土；灰白色粘土子中量。しまり強い。粘性なし。
- 4 56/0 灰色土；灰褐色土主体。しまり強い。粘性なし。

第5号土坑土境説明

- 1 10106/2 黄褐色土；ローム大ブロック少量・ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。
- 2 10106/2 灰白褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 3 10106/2 灰白褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 4 10106/1 灰白褐色土；ローム大ブロック少量。黑色中ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 5 10106/2 黄褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 6 10106/3 にぶい黄褐色土；ローム大ブロック少量・ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。
- 7 10106/8 明黄褐色土；ローム主体。灰白褐色中ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 8 10106/8 明黄褐色土；ローム主体。灰白褐色中ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 9 10106/8 明黄褐色土；ローム主体。灰白褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。

第6号土坑土境説明

- 1 10106/3 にぶい黄褐色土；ローム大ブロック中量・ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。
- 2 56/0 灰色土；灰褐色土主体。しまりあり。粘性なし。

第7号土坑土境説明

- 1 10106/3 にぶい黄褐色土；ローム大ブロック中量・ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。
- 2 56/0 灰白褐色土；灰白色粘土子中量。しまりあり。粘性なし。

第8号土坑土境説明

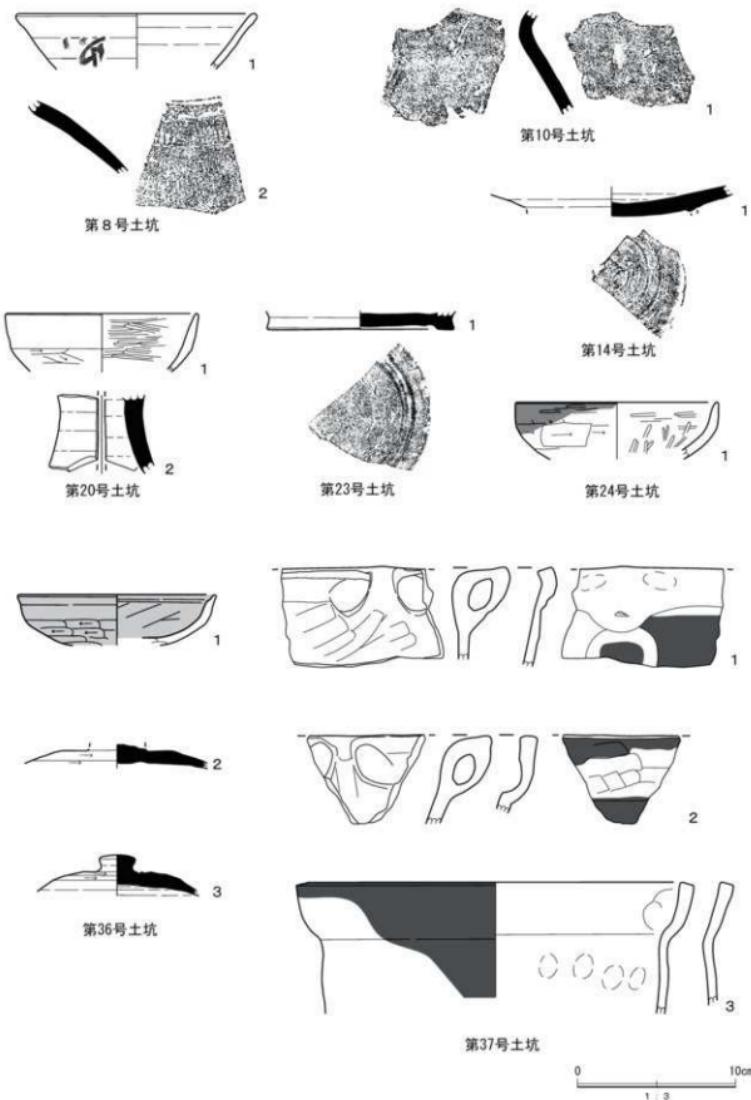
- 1 10106/3 にぶい黄褐色土；ローム粒子多量。黒褐色中ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 2 56/0 灰白褐色土；灰褐色土主体。しまりあり。粘性なし。
- 3 10106/1 黑褐色土；ローム大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

第9号土坑土境説明

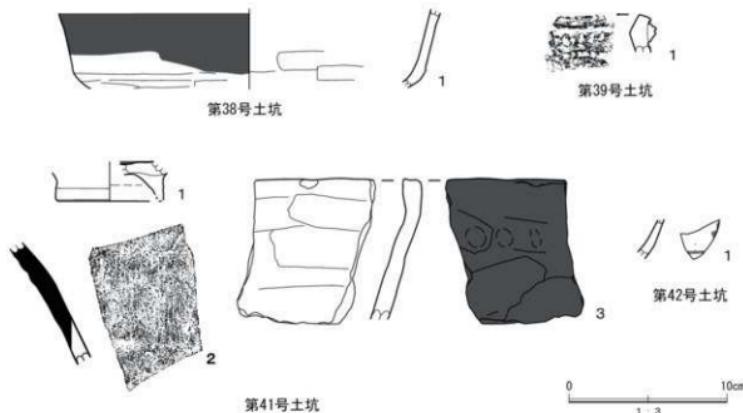
- 1 10106/3 にぶい黄褐色土；ローム粒子多量。黒褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 2 56/0 灰白褐色土；ローム大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

第10号土坑土境説明

- 1 10106/1 黑褐色土；ローム大ブロック多量・ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。
- 2 10106/1 黑褐色土；ローム大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 3 10106/1 黑褐色土；ローム大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 4 10106/1 黑褐色土；ローム大ブロック多量・ローム粒子少量。にぶい黄褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 4 10106/4 にぶい黄褐色土；ローム大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。



第19圖 第8・10・14・20・23・24・36・37号土坑出土遺物



第20図 第38・39・41・42号土坑出土遺物

第7表 第8号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	頸壺器	壺	(15.0)	—	[3.5]	淡褐色土	長石・石英少量 褐色粒子	普通	ロクロ成形。酸化焼成	8 c 4/4	外面墨書きあり
2	頸壺器	短颈壺	—	—	[6.5]	灰白色	長石・石英・ 黒色砂粒	普通	粘土糊口クロ成形。内面当具。 外表面凹印き。自然釉剥落 平行帯	8 c 後	木葉下當時群産

第8表 第10号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	頸壺器	壺	—	—	[6.5]	淡灰褐色	長石・石英少量 褐色粒子	やや不良	ロクロ成形。酸化焼成	8 c 代	木葉下當時群産

第9表 第14号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	頸壺器	高台付壺	—	—	(1.4)	灰色	長石・石英・斜方物 質	良	ロクロ成形。底部へラ切痕回転へ タ削り。貼付け高台	8 c 代	木葉下當時群産

第10表 第20号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	土師器	壺	(12.0)	—	[3.7]	淡褐色	長石・石英混入・黑 色砂粒	良	輪轉成形。内面赤彩。ヨコヘラ削 き。外面部部ヨコヘラ削り。口辺 部ヨコナギ	7 c 4/4 ~ 8 c 1/4	
2	頸壺器	高壺	—	—	(4.9)	暗灰色	長石・石英黑色粒	良	ロクロ成形	7 c 4/4 ~ 8 c 1/4	木葉下當時群産

第11表 第23号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	須恵器	壺	—	[11.6]	[1.2]	灰褐色	長石・石英・雲母 斜状結晶	良	ロクロ成形。付高台	8 c	

第12表 第24号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	土師器	壺	[12.6]	—	[3.6]	灰褐色	長石・石英・雲母	良	体部外側ヨコヘラ削り、内面ヨコナダ	7 c 末～ 8 c 1/4	口縁部外側と 内面漆塗り

第13表 第36号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	土師器	壺	(12.4)	—	[2.8]	褐色	長石・石英・雲母 赤色粒子	良	口縁部外側横ナダ。体部外側ヨコ ヘラ削り、内面ナダ。	7 c 末～ 8 c 初頭	口縁部外側と 内面赤色塗装
2	須恵器	蓋	—	—	[1.8]	灰褐色	長石・石英・雲母	良	ロクロ成形	8 c 1/4	
3	須恵器	蓋	—	—	[2.8]	灰褐色	長石・石英・ 斜状結晶	良	ロクロ成形	8 c 1/4 以前	

第14表 第37号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	土師質土器	内耳鉢	(33.0)	—	[6.3]	褐色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナダ。体部内外面 指ナダ。	15 c	外腹煤付着
2	土師質土器	内耳鉢	(28.0)	—	[5.8]	黄褐色	長石・石英・雲母	普通	口縁部内外面横ナダ。体部内面ヘ ラナダ。	15 c	外腹煤付着
3	土師質土器	内耳鉢	(23.4)	—	[8.3]	灰褐色	長石・石英・雲母 斜状結晶	普通	口縁部内外面横ナダ。体部内外面 ヘラナダ。	15 c	外腹煤付着

第15表 第38号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	土師質土器	總	—	[20.0]	[5.0]	灰褐色	長石・石英・雲母	良	輪積成形・内面ヨコナダ・体部 下端ヨコヘラ削り。	15 c 前	外腹煤附着

第16表 第39号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	織文土器	深鉢	—	—	[2.3]	褐色	長石・石英・雲母	良	輪積成形・内面ヨコナダ・刺突文	織文中期	外腹煤附着 阿玉台式

第17表 第41号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	土師器	高台付 壺	—	(6.4)	[2.5]	褐色	長石・石英・黒色 粘土	良	ロクロ成形	10 c 初頭	内面煤付着
2	須恵器	壺	—	—	[8.7]	褐灰色	長石・石英	普通	輪積成形後ロクロ整形	8 c 代	木葉下窓跡都座
3	土師質土器	縦	—	—	[5.2]	黑褐色	長石・石英・雲母 多量	普通	輪積成形・内面ヨコナダ・指ナダ	15 c 代	外腹煤付着

第18表 第42号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	磁器	瓶	—	—	[1.8]	乳白色	磁石	良	ロクロ成形。染付。外腹文様。一 重巻縞	18 c	

第3節 溝跡

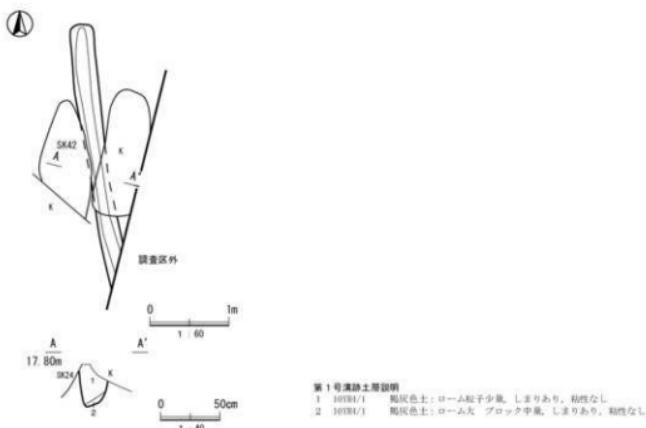
第1号溝跡（第21図/第22表/図版13）

位置・重複関係 5Bグリッドに位置する。第42号土坑に切られている。主軸方位はN-8°-Wである。

形態 検出部分での平面規模は全長150cm以上、幅50cm、深さ44cmを測る。

遺物 繩文土器2点、須恵器甕1点、土師質土器鍋1点、陶器擂鉢1点、磁器碗2点、瓦質土器鉢1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、出土遺物から中世以降と推定される。



第21図 第1号溝跡実測図

第4節 性格不明造構

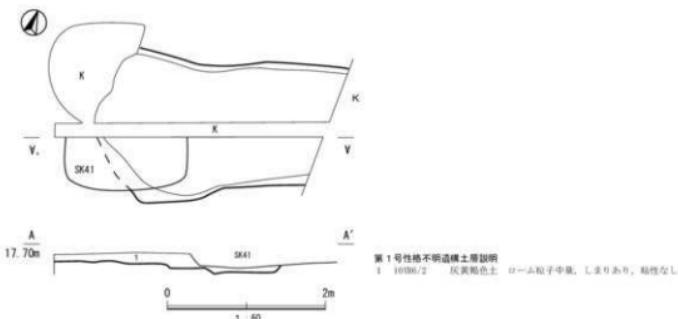
第1号性格不明造構（第22・23図/第19・22表/図版13・25）

位置・重複関係 4Bグリッドに位置する。第41号土坑に切られる。東側は擾乱され、西側は不明瞭である。主軸方位はN-70°-Eである。

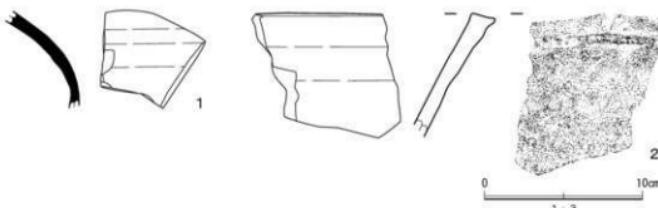
形態 平面形は構状を呈し、検出部分での平面規模は長軸370cm以上、短軸140~170cm、深さ4~18cmを測る。

遺物 須恵器甕7点・壺1点、土師質土器鍋1点、陶器片口鉢1点が出土し、このうち2点を図示した。1は須恵器甕の肩部で、外面には自然釉が見られる。2は陶器片口鉢で、常滑産で15世紀後半と推定される。

時期 廃絶時期は、出土遺物の年代から中世以降と推定される。



第22図 第1号性格不明造構実測図



第23図 第1号性格不明造構出土遺物

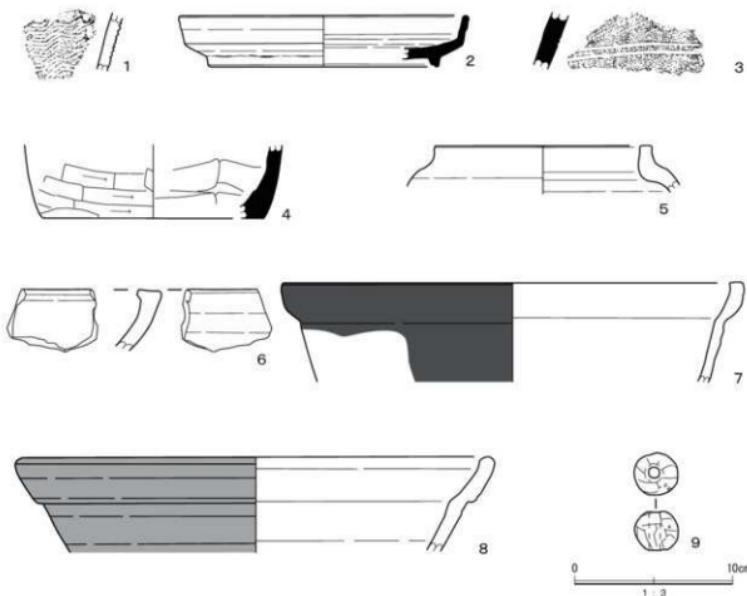
第19表 第1号性格不明造構出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	施成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	深さ						
1	須恵器	壺	—	—	[6.5]	褐灰色	石英・長石・黒色砂 粒多量	不良	ロクロ成形・自然縫	8世紀	二次被熱により 表面荒れ
2	陶器	鉢	—	—	[7.8]	黒褐色	長石・石英	普通	ロクロ成形	15世紀後	火照れしている

第5節 遺構外出土遺物（第24図/第20～22表/図版25・26）

遺構外の遺物は、縄文土器1点、土師器甕48点、須恵器壺7点・高台壺1点・甕21点、土師質土器鍋1点・火鉢5点・壺1点、陶器擂鉢1点、陶器碗1点、土製品丸玉1点が出土し、このうち9点を図示した。

1は縄文土器で、半截竹管により2条1組の波状文を施文する。2は須恵器高台付盤で、内底面立上り部に沈線が見られる。8世紀第2四半期と推定される。3は須恵器壺の体部で、4は須恵器壺の底部である。5は土師質土器の火消壺で、肩部に灰が付着する。19世紀代と推定される。6は土師質土器火鉢で、18世紀代と推定される。7は土師質土器鍋で、15世紀後半と推定される。8は陶器擂鉢で、内外面に鉄軸が施釉される。18世紀後半と推定される。9は土製品丸玉で、近世以降と推定される。



第24図 造構外出土遺物

第20表 造構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	粘土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	高さ						
1	織文土器	深鉢	—	—	[3.7]	褐色	長石・石英	良	外面2条一体の櫛描き波状文・内面ヨコナデ。腹位の側突文	縄文前期	浮島I式
2	須恵器	盤	(18.0)	(14.4)	[3.2]	灰色	長石・石英・黒色粒子・射出鉱物	良	ロクロ成形	8 c 2/4	
3	須恵器	盤	—	(7.2)	[1.1]	灰色	長石無量	良	外表面櫛状工具による整形後ヨコナデ後機2条波紋	8 c 代	
4	須恵器	盤	—	(13.8)	[4.7]	暗灰黄色	長石・石英無量	普通	内面ヨコナデ・外面はヘラ削り	8 c 代	
5	土師質土器	壺	(13.5)	—	[2.9]	淡褐色	長石・石英微量	良	ロクロ成形	19 c	外表面灰付着
6	土師質土器	火鉢	—	—	[3.9]	淡褐色	長石・石英微量	良好	体部内外面ロクロナデ	18 c	
7	土師質土器	鍋	(29.0)	—	[6.37]	褐色	長石・石英微量微量・雲母少量	良好	ロクロ成形	15 c 後	外表面灰付着
8	陶器	桶鉢	(29.5)	—	[5.9]	赤褐色	長石・石英無量・微量	良好	ロクロ成形・鉄錆全面施釉	18 c 後	瀬戸系

第21表 造構外出土土製品遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	粘土	特徴	推定年代	備考
			径	長さ	孔径					
9	土製品	丸玉	2.47	2.67	0.7	17.0	長石・石英	ナデ		近世

第22表 A区出土遺物数量一覧表

遺物名	土器類				須恵器				土師器				瓦器・土器				鉄器品														
	深鉢	片口	高台所	甕	片口	高台所	甕	高台所	高台所	高台所	甕	高台所	甕	高台所	甕	高台所	甕	手・足	瓦	鐵											
直鉢	底敷	蓋さ	底敷	蓋さ	底敷	蓋さ	底敷	蓋さ	底敷	蓋さ	底敷	蓋さ	底敷	蓋さ	底敷	蓋さ	底敷	蓋さ	底敷	蓋さ											
1号窓穴建物	1	3.5	52	378.0	9	47.8	1	12.5	1	27.9	2	44.1	1	18.8							64										
2号窓穴建物			21	227.0	1	3.5		1	3.6	1	19.9	2									28										
3号窓穴建物			63	165.6							296.0										65										
4号窓穴建物			15	353.0	2	8.2															176.0										
2号上瓶					1	6.5															2										
4号上瓶					5	13.6	2	12.0	1	12.4			1	73.5							2										
5号上瓶					1	3.1			1	12.0			1	21.7							9										
7号上瓶			1	48.7									1	14.6							2										
8号上瓶					1	3.4			1	13.9			1	46.2							2										
9号上瓶			1	13.9																	3										
10号上瓶			2	5.7																	21										
11号上瓶			3	11.7	2	5.1															6										
12号上瓶			3	9.3	4	18.9	7	68.8													14										
13号上瓶					8	48.9	2	10.5			1	7.5									11										
14号上瓶					5	30.7	3	10.7	1	14.5											9										
16号上瓶			1	7.6																	3										
A 17号上瓶			2	41.6																	12										
19号上瓶			5	19.5	5	23.1			1	8.1	1	46.3									2										
K 20号上瓶	3	49.1	9	62	3	18.9	39	331.6	9	52.8	1	6.4		8	311.4						70										
21号上瓶					1	16.6															3										
24号上瓶			1	18.0	2	33.2															3										
25号上瓶			2	21.0	2	17.9										3	38.6				2										
26号上瓶					1	18.7															3										
28号上瓶					1	4.4											1	13.0			1										
30号上瓶			2	13.0	1	6.4	3	6.8					1	8.5							10										
31号上瓶					2	5.6										2	16.0				6										
32号上瓶					2	3.2															2										
34号上瓶			1	4.6	6	38.7	1	9.1	2	47.2			1	32.2							11										
36号上瓶			1	24.2												2	125.6				3										
37号上瓶			1	9.2														3	35.6		4										
38号上瓶					1	4.6	1	5.7										1	26.4		3										
40号上瓶																					3										
41号上瓶																					6										
42号上瓶			3	10.5	1	44.0	5	59.6	2	6.3		1	15.8			1	32.7				4										
1号罐	2	23.1														2	14.1				13										
1号壺																1	63.5				8										
1号不透窓																1	16.7	1	69.8	1	48.8										
須恵外	1	10.6	29	215.4	3	72.3	306	265.2	68	268.2	6	131.9	5	36.7	1	14.6	1	20.1	1	16.5	10										
計	8	145.5	29	215.4	3	72.3	306	265.2	68	268.2	6	131.9	5	36.7	2	17.4	64	134.7	1	16.2	2	16.7	1	78.3	1	18.8	1	17.0	1	78.0	52.5

※個体は、第1号窓穴建物跡 須恵器杯1点、第4号窓穴建物跡 須恵器杯1点、第20号土坑 須恵器蓋1点、遺構外 土製丸玉1点の計4点で、他は全て破片である。

第5章 B区（第15地点 第3次調査区）遺構と遺物

第1節 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第26・29図/第23・27表/図版14・26）

位置・重複関係 4B・Cグリッドに位置し、東側のおおよそ1/3が調査区外に続く。西側の一部は擾乱されている。

形態 平面形は方形と推定される。主軸方位は主軸はN-15°-Eである。検出部分での規模は長軸362cm、短軸153cm以上、深さ38cmを測る。壁下の周溝は全周するものではなく、南側で途切れている。床面は貼床でほぼ平坦、各辺から20～30cm内側が硬化している。柱穴は1箇所が確認され、直径36～38cm、深さ20cmを測る。カマドは未検出であるが、調査区外北側にあるものと推定される。

遺物 土師器壺4点、須恵器壺2点・甕3点が出土し、このうち1点を図示した。1は須恵器壺で、底部は回転ヘラ切り後、切離し部と外周を回転ヘラ削りされる。内底面立上り部分から直線的に外反して口縁部に至る。内面中位に自然釉が周回している。重ね焼きの痕跡であろう。8世紀第2四半期と推定される。

時期 廃絶時期は、須恵器の年代から奈良時代（8世紀中葉頃）と推定される。

第2号竪穴建物跡（第27・30図/第24・27表/図版15・26）

位置・重複関係 4Bグリッドに位置し、西側のおおよそ3/4が調査区外に続く。西側の一部は擾乱されている。

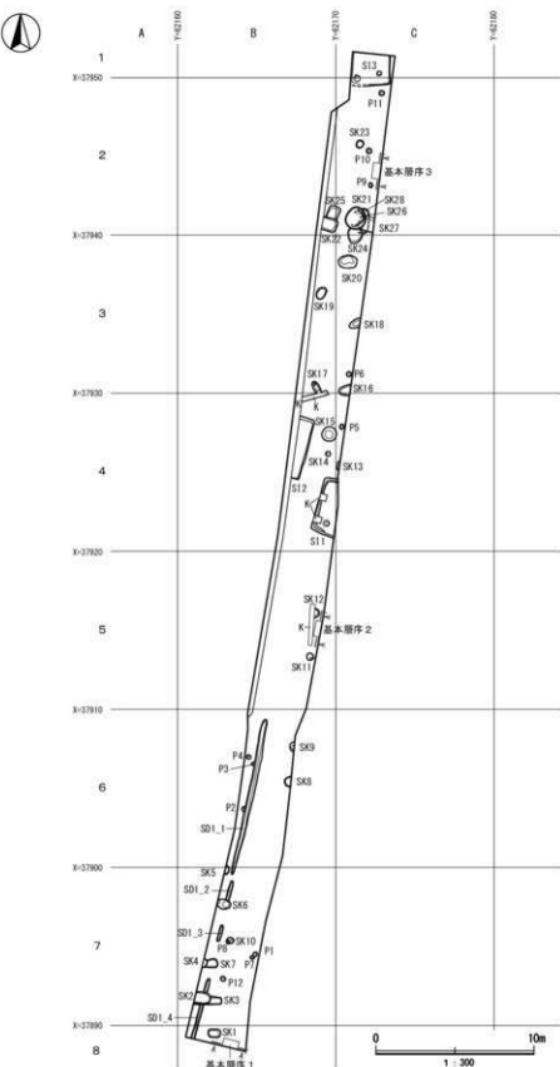
形態 平面形は方形と推定される。主軸方位は主軸はN-15°-Eである。検出部分での規模は長軸390cm、短軸98cm以上、深さ42cmを測る。壁下に周溝はない。床面はほぼ平坦、北壁から60cm、南壁から90cm、東壁から20cm内側は硬化している。柱穴、カマドは未検出である。遺物 土師器甕7点、須恵器壺1点が出土し、このうち1点を図示した。1は須恵器壺で、花弁状回転ヘラ切後ナデ仕上げされる。内底面立上り部分から体部下半まで直線的に開き部上半は僅かに外反する。8世紀第3四半期と推定される。

時期 廃絶時期は、須恵器の年代から奈良時代（8世紀中葉頃）と推定される。

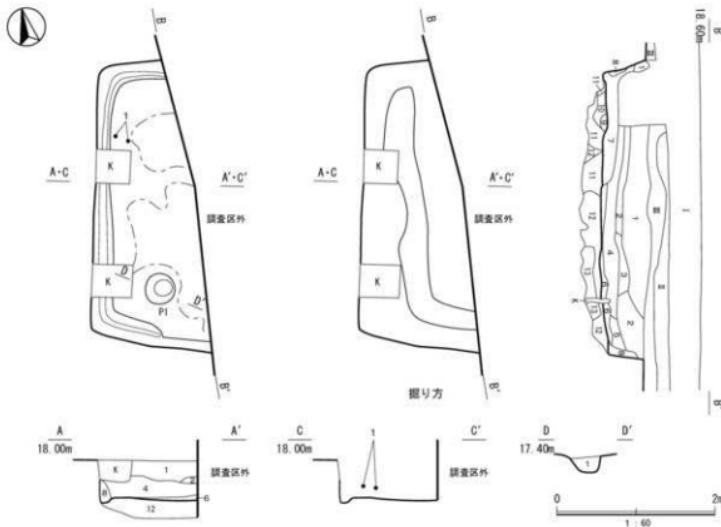
第3号竪穴建物跡（第28図/第27表/図版15）

位置・重複関係 1・2Cグリッドに位置する。全体の3/4が調査区外に続く。北東から南西にかけて擾乱される。

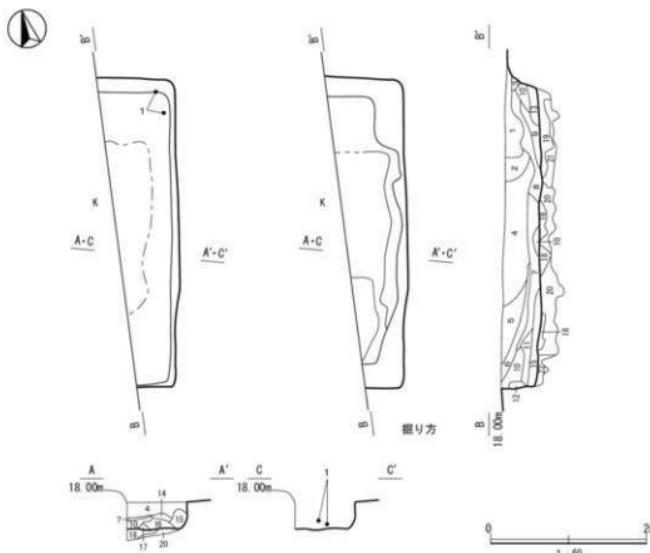
形態 平面形は方形と推定される。主軸方位は主軸はN=0°である。検出部分での規模は長軸234cm以上、短軸200cm以上、深さ60cmを測る。壁下に周溝はない。床面は平坦でローム直床。柱穴は2箇所が確認され、P1が直径38cm、深さ60cm、P2が直径38cm、深さ38cmを測る。P2は北側に向かって斜坑する。入口施設との関連も思わせる。カマドは未検出である。



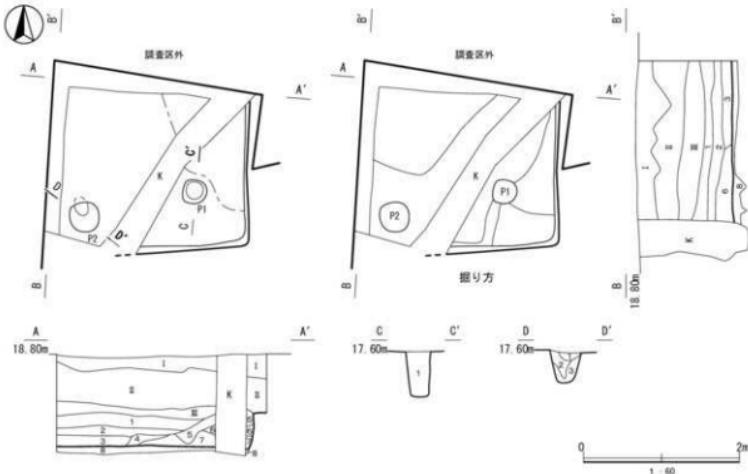
第25図 B区（第15地点第3次調査区）全体図



第26図 第1号竪穴建物跡実測図



第27図 第2号竪穴建物跡実測図



第28図 第3号堅穴建物跡実測図

第1号堅穴建物跡土層説明

- 1 101W4/1 黄灰土上：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 2 101W5/2 灰黄褐色土：ローム粒子多量。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 3 101W4/1 黄褐色土：ローム大ブロック中量。ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。
- 4 101S3/3 黑褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 5 101W4/1 黄灰土上：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 6 101W4/4 にじみ黄褐色土：ローム粒子多量。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 7 101W6/8 明黄褐色土：ローム主体。黒褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 8 101S6/8 明黄褐色土：ローム主体。灰褐色大ブロック少量。しまりあり。
- 9 101W6/8 明黄褐色土：ローム主体。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 10 101S5/2 灰黄褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。砂質に近い。
- 11 101S5/2 灰黄褐色土：灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 12 101W6/8 明黄褐色土：ローム主体。灰褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 13 101W6/8 明黄褐色土：ローム主体。灰褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。

第2号堅穴建物跡土層説明

- 1 7.03W1/1 黄褐色土上：ローム大ブロック少量。ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 2 101S5/3 にじみ黄褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 3 101W6/8 明黄褐色土：ローム主体。ローム粒子多量。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 4 101W4/1 黄褐色土：ローム粒子多量。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 5 101W5/2 灰黄褐色土：ローム大ブロック中量。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 6 101W5/2 灰黄褐色土：ローム大ブロック中量。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 7 101W5/1 黄灰土上：ローム大ブロック少量。ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。
- 8 101W5/2 灰黄褐色土：ローム大ブロック少量。ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。
- 9 101W4/1 黄褐色土：灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 10 101W4/1 黄褐色土上：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

11 2.51S/2 雜灰黃色土：ローム大ブロック少量。ローム粒子多量。

- 12 2.51S/2 雜灰黃色土：ローム粒子多量。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 13 101W8/1 灰白色土上：灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

2.42M北壁窟

- 14 101W5/1 灰褐色土：ローム大ブロック中量。ローム粒子中量。灰褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 15 101S2/1 灰褐色土：ローム粒子多量。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 16 101W6/4 灰褐色土：ローム粒子多量。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

3.15M北壁窟

- 17 101W7/6 明黃褐色土：ローム主体。黑褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 18 101W6/8 明黃褐色土：ローム主体。灰褐色大ブロック少量。しまりあり。
- 19 101W6/8 明黃褐色土：ローム主体。灰褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

4.00M北壁窟

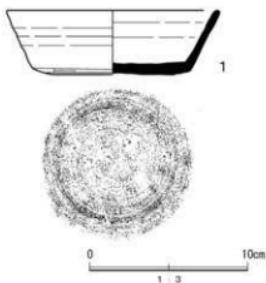
- 20 101W5/2 灰黃褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。砂質に近い。
- 21 101W5/2 灰黃褐色土：雜色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。
- 22 101W6/8 明黃褐色土：ローム主体。灰褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。

第3号堅穴建物跡土層説明

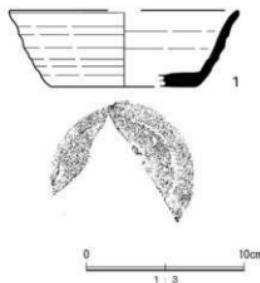
- 1 101R3/1 黑褐色土：ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。
- 2 101R3/2 黑褐色土：ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。
- 3 101W4/2 灰褐色土：ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。
- 4 101W6/8 明黃褐色土：ローム主体。黑褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。【山側に硬面のブロックがある】
- 5 101S4/2 灰黃褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
- 6 101R3/2 黑褐色土：ローム大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 7 7.51W1/1 黑褐色土：ローム大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。
- 8 101W6/8 明黃褐色土：ローム主体。黑褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。

第3号堅穴建物跡1号ヒット土層説明

- 1 101R3/1 黑褐色土：ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。
- 2 101R5/1 黑褐色土：ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。
- 3 101W6/8 明黃褐色土：ローム主体。にじみ黄褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。



第29図 第1号竪穴建物跡出土遺物



第30図 第2号竪穴建物跡出土遺物

第23表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	須恵器	壺	(13.2)	(9.9)	(4.1)	灰色	長石・石英・針状鉱物	良好	ロクロナ成形・底部へラ切後回転 ～ハラ削り。	B c 2/4	切離し径(7.2)

第24表 第2号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	法量(cm)			色調	胎土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	器高						
1	須恵器	壺	(14.3)	(9.1)	(4.8)	灰色	長石・石英・針状鉱物	良好	ロクロ成形・回転～ハラ切	B c 3/4	木葉下當時群産

遺物 土師器壺4点・甕4点、須恵器壺2点・甕5点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、A区第1～3号竪穴建物跡に方位・規模が近似することから平安時代（8～9世紀頃）と推定される。

第2節 土坑

第1号土坑（第31図/図版15）

位置・重複関係 8Bグリッドに位置する。主軸方位はN-90°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形を呈し、平面規模は長軸78cm、短軸64cm、深さ10cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第2号土坑（第31図/第27表/図版16）

位置・重複関係 7Bグリッドに位置し、主軸方位はN-90°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形と推定される。第1号溝-4、第3号土坑を切っている。西側は調査区外へ続く。検出部分での平面規模は長軸98cm以上、短軸73cm、深さ12cmを測る。

遺物 土師器壺2点・甕1点、須恵器壺1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第3号土坑 (第31図/図版16)

位置・重複関係 7Bグリッドに位置し、第2号土坑に切られる。西側は調査区外に続く。主軸方位はN-90°-Eである。

形態 平面形は溝状を呈し、検出部分での平面規模は長軸178cm以上、短軸46~52cm、深さ10~17cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、切り合いから中世以降と推定される。

第4号土坑 (第31図/図版16)

位置・重複関係 7Bグリッドに位置し、第7号土坑を切っている。西側は調査区外に続く。主軸方位はN=0°である。

形態 平面形は円形あるいは梢円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸56cm以上、短軸24cm以上、深さ32cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第5号土坑 (第31図/図版16)

位置・重複関係 6・7Bグリッドに位置する。西側は調査区外に続く。主軸方位はN=0°である。

形態 平面形は円形あるいは梢円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸60cm以上、短軸25cm以上、深さ44cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第6号土坑 (第31図/第27表/図版16)

位置・重複関係 7Bグリッドに位置する。第1号溝-2を切る。西側の一部は調査区外に続く。主軸方位はN-82°-Wである。

形態 平面形は梢円形を呈する。検出部分での平面規模は長軸87cm以上、短軸62cm、深さ40cmを測る。

遺物 須恵器壺1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、切り合いから中世以降と推定される。

第7号土坑 (第31図/図版17)

位置・重複関係 7Bグリッドに位置する。第4号土坑に切られる。主軸方位はN-82°-Eである。

形態 平面形は不整梢円形を呈する。検出部分での平面規模は長軸100cm以上、短軸54cm、深さ20cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第8号土坑 (第31図/図版17)

位置・重複関係 6Bグリッドに位置する。東側は調査区外に続く。主軸方位はN-82°-Eである。

形態 平面形は円形あるいは梢円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸64cm以上、短軸40cm以上、深さ20cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第9号土坑 (第31図/図版17)

位置・重複関係 6Bグリッドに位置する。東側は調査区外に続く。主軸方位はN-82°-Eである。

形態 平面形は円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸62cm以上、短軸27cm以上、深さ24cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第10号土坑 (第31図/図版17)

位置・重複関係 7Bグリッドに位置する。P8を切る。主軸方位はN-46°-Eである。

形態 平面形は円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸44cm、短軸33cm以上、深さ11cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第11号土坑 (第31図/図版17)

位置・重複関係 5Bグリッドに位置する。主軸方位はN-40°-Wである。

形態 平面形はほぼ円形を呈する。平面規模は長軸45cm、短軸42cm、深さ47cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第12号土坑 (第31図/図版17・18)

位置・重複関係 5Bグリッドに位置する。西側一部が擾乱される。主軸方位はN-40°-Wである。

形態 平面形は円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸58cm、短軸40cm以上、深さ12cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第13号土坑（第31図/第27表）

位置・重複関係 4 C グリッドに位置する。東側は調査区外へ続く。主軸方位はN-86°-Wである。

形態 平面形は不整楕円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸58cm、短軸13cm以上、深さ45cmを測る。

遺物 須恵器壺1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第14号土坑（第31図/図版18）

位置・重複関係 4 B グリッドに位置する。主軸方位はN-50°-Wである。

形態 平面形は円形を呈する。平面規模は32cm×32cm、深さ37cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第15号土坑（第31図/図版18）

位置・重複関係 4 B グリッドに位置する。主軸方位はN-50°-Wである。

形態 平面形は円形を呈する。平面規模は92cm×92cm、深さ46cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第16号土坑（第31図/第27表/図版18）

位置・重複関係 3・4 C グリッドに位置する。東側は調査区外へ続く。主軸方位はN-76°-Eである。

形態 平面形は楕円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸72cm以上、短軸68cm、深さ20cmを測る。

遺物 土師器甕1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第17号土坑（第31図/第27表/図版18）

位置・重複関係 3 B グリッドに位置する。南側の一部が擾乱される。主軸方位はN-36°-Wである。

形態 平面形は楕円形を呈する。検出部分での平面規模は長軸86cm以上、短軸40cm、深さ24cmを測る。

遺物 土師器甕1点、須恵器甕1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第18号土坑（第31図/図版19）

位置・重複関係 3 C グリッドに位置する。東側は調査区外へ続く。主軸方位はN-58°-Eである。

第5章 B区 遺構と遺物

形態 平面形は不整楕円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸73cm以上、短軸57cm、深さ30cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第19号土坑（第31図/図版19）

位置・重複関係 3Bグリッドに位置する。主軸方位はN-16°-Eである。

形態 平面形は楕円形を呈する。平面規模は長軸80cm、短軸55cm、深さ17cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第20号土坑（第32図/図版19）

位置・重複関係 3Bグリッドに位置する。遺構中央部を南北方向に擾乱される。主軸方位はN-90°-Eである。

形態 平面形は楕円形を呈する。平面規模は長軸152cm、短軸79cm、深さ26cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第21号土坑（第32図/第27表/図版19）

位置・重複関係 2・3Cグリッドに位置する。第24号土坑、第26号土坑、第27号土坑、第28号土坑を切る。主軸方位はN-5°-Eである。

形態 平面形は楕円形を呈する。平面規模は長軸138cm、短軸127cm、深さ20cmを測る。

遺物 須恵器壺2点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第22号土坑（第32・33図/第25・27表/図版19・26）

位置・重複関係 2B・Cグリッドに位置する。第25号土坑を切る。西側は調査区外へ続く。主軸方位はN-80°-Wである。

形態 平面形は隅丸長方形と推定される。検出部分での平面規模は長軸95cm以上、短軸82cm、深さ21cmを測る。

遺物 土師器壺1点・甕3点、須恵器壺5点が出土し、このうち1点を図示した。1は土師器甕の頸部から口縁部片である。8世紀前半と推定される。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第23号土坑（第32図/図版20）

位置・重複関係 2Cグリッドに位置する。主軸方位はN-7°-Eである。

形態 平面形は不整円形を呈する。平面規模は長軸26cm、短軸23cm、深さ30cmを測る。

遺物 土師器甕4点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、不明である。

第24号土坑（第32図/第27表/図版20）

位置・重複関係 2・3 C グリッドに位置する。第28号土坑を切り、第21号土坑、第27号土坑に切られる。主軸方位はN=0°である。

形態 平面形は不整円形を呈する。検出部分での平面規模は長軸100cm、短軸92cm、深さ19cmを測る。

遺物 土師器甕3点、須恵器坏1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構の切り合いから、中世以降と推定される。

第25号土坑（第32図/図版20）

位置・重複関係 2 B・C グリッドに位置する。第22号土坑に切られる。主軸方位はN=20°-Eである。

形態 平面形は隅丸長方形と推定される。検出部分での平面規模は長軸83cm以上、短軸70cm、深さ23cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

第26号土坑（第32図/図版20）

位置・重複関係 2 C グリッドに位置する。第27号土坑を切り、第21号土坑に切られる。主軸方位はN=40°-Eである。

形態 平面形は不整梢円形と推定される。検出部分での平面規模は長軸90cm以上、短軸73cm以上、深さ20cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。

第27号土坑（第32図/第27表/図版20）

位置・重複関係 2 C グリッドに位置する。第26号土坑に切られる。主軸方位はN=70°-Wである。

形態 平面形は隅丸長方形と推定される。検出部分での平面規模は長軸100cm以上、短軸95cm、深さ16cmを測る。

遺物 土師器坏1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

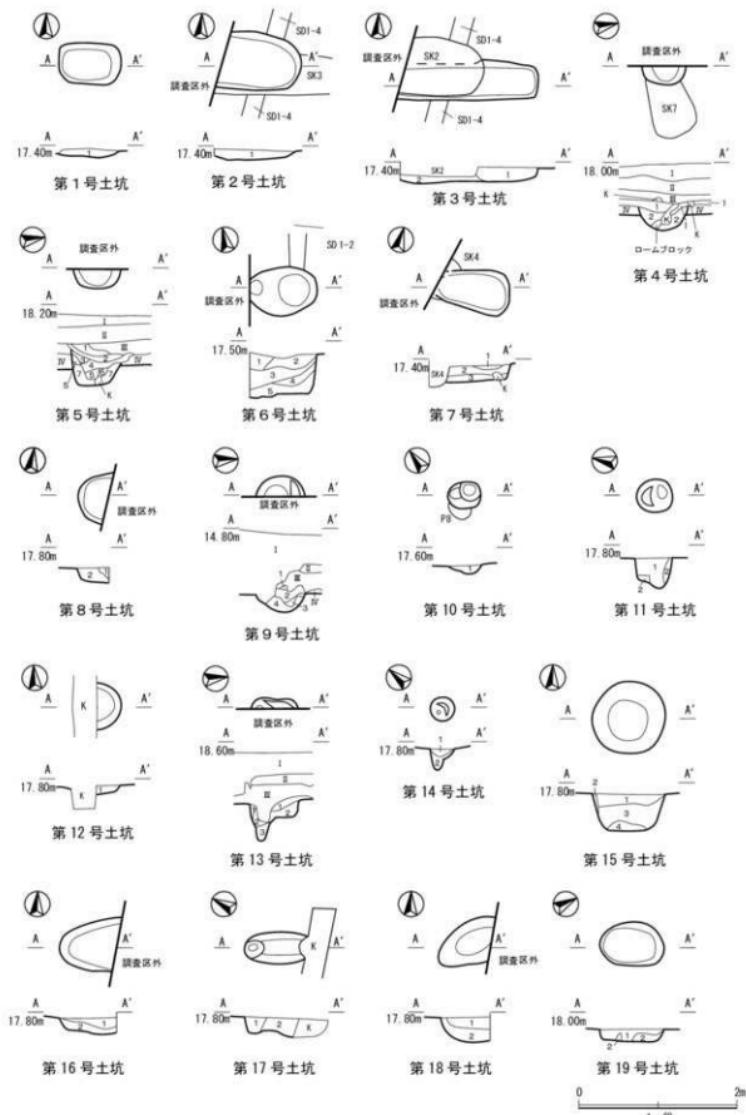
第28号土坑（第32図/図版20）

位置・重複関係 2 C グリッドに位置する。第21号土坑、第24号土坑に切られる。主軸方位はN=40°-Eである。

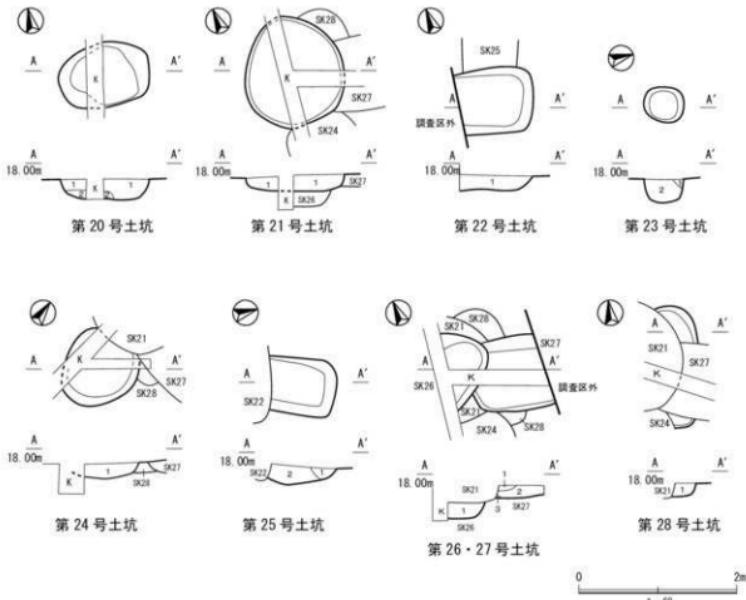
形態 平面形は隅丸長方形と推定される。検出部分での平面規模は長軸153cm、短軸58cm以上、深さ18cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 廃絶時期は、不明である。



第31図 第1～19号土坑実測図



第32図 第20～28号土坑実測図

第1号土坑土壤説明

1 10183/1 黒褐色土；ローム粒子少。しまりあり。粘性なし。

第2号土坑土壤説明

1 10183/1 黒褐色土；ローム粒子少。しまりあり。粘性なし。

第3号土坑土壤説明

1 10183/1 黄褐色土；しまりあり。粘性なし。

2 10186/2 灰褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

第4号土坑土壤説明

1 10183/2 黄褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

2 10185/2 灰褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

第5号土坑土壤説明

1 10182/1 黑褐色土；ローム粒子少。しまりあり。粘性なし。

2 10182/2 灰褐色土；ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

3 10184/1 灰褐色土；しまりあり。粘性なし。

4 10185/1 灰褐色土；黄褐色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。

5 10184/1 灰褐色土；しまりあり。粘性なし。

6 10185/2 灰褐色土；明黄色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

7 10185/3 こぶし状褐色土；明黄色大ブロック少量。しまりあり。粘性なし。

第6号土坑土壤説明

1 10185/1 黄褐色土；ローム粒子少。しまりあり。粘性なし。

2 10185/3 こぶし状黃褐色土；ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

3 10183/1 黑褐色土；ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

4 10184/1 黄褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

5 10185/1 黄褐色土；ローム粒子少。しまりあり。粘性なし。

第7号土坑土壤説明

1 10185/1 黑褐色土；しまりあり。粘性なし。

2 10186/3 こぶし状黃褐色土；ローム粒子少。しまりあり。粘性なし。

3 10186/3 こぶし状黃褐色土；ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

第8号土坑土壤説明

1 39184/2 灰褐色土；ローム粒子少。しまりあり。粘性なし。

2 39186/2 灰褐色土；黄褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

第9号土坑土壤説明

1 39184/2 灰褐色土；ローム粒子少。しまりあり。粘性なし。

2 39186/1 黑褐色土；ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

3 39186/2 黄褐色土；ローム粒子少。黒色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

4 39184/1 黑褐色土；ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

第10号土坑土壤説明

1 39184/1 黑褐色土；ローム大ブロック少。しまりあり。粘性なし。

第11号土坑土壤説明

1 2, 39184/3 黑褐色土；しまりあり。粘性なし。

2 39186/2 黄褐色土；黄褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

第12号土坑土壤説明

1 2, 39184/2 黑褐色土；ローム粒子少。しまりあり。粘性なし。

第13号土坑土壤説明

1 2, 39184/3 黑褐色土；しまりあり。粘性なし。

2 39185/1 黑褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

3 39185/2 黄褐色土；しまりあり。粘性なし。

第14号土坑土壤説明

1 39184/1 黑褐色土；しまりあり。粘性なし。

2 39186/1 黑褐色土；ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

第5章 B区 遺構と遺物

第15号土坑土層説明

- 1 10785/2 灰黃褐色土：ローム大ブロック多量。ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
2 10786/2 灰黃褐色土：ローム大ブロック多量。ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
3 10785/3 にじみ黄褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。
4 10785/2 灰黃褐色土：真褐色大ブロック多量。しまりあり。粘性なし。

第16号土坑土層説明

- 1 10786/1 灰褐色土；しまりあり。粘性なし。
2 10786/3 にじみ黄褐色土；しまりあり。粘性なし。

第17号土坑土層説明

- 1 10784/1 灰褐色土；しまりあり。粘性なし。
2 10782/1 黒褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

第18号土坑土層説明

- 1 10784/1 灰褐色土；しまりあり。粘性なし。
2 10785/2 灰黃褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

第19号土坑土層説明

- 1 10784/1 灰褐色土：ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。
2 10786/3 にじみ黄褐色土：灰褐色ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

第20号土坑土層説明

- 1 10784/1 灰褐色土：ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。
2 10785/2 灰黃褐色土：ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

第21号土坑土層説明

- 1 10784/1 灰褐色土：ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。

第22号土坑土層説明

- 1 10784/1 灰褐色土：ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。

第23号土坑土層説明

- 1 10783/1 灰褐色土：ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

- 2 10783/1 黑褐色土：ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。

第24号土坑土層説明

- 1 10784/1 灰褐色土：ローム粒子少量。しまりあり。粘性なし。

第25号土坑土層説明

- 1 10783/1 黑褐色土：ローム粒子少量。灰黃褐色大ブロック中量。しまりあり。粘性なし。

- 2 10785/2 灰黃褐色土：しまりあり。粘性なし。

第26号土坑土層説明

- 1 10785/2 灰黃褐色土：ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

第27号土坑土層説明

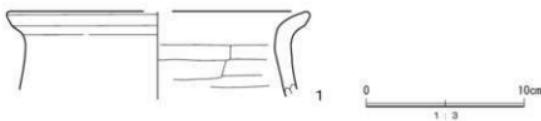
- 1 7.10784/1 灰褐色土：ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

- 2 10784/2 灰黃褐色土：ロームブロック少量。ローム粒子多量。しまりあり。粘性なし。

- 3 7.10784/1 黄褐色土：ローム粒子中量。しまりあり。粘性なし。

第28号土坑土層説明

- 1 10784/1 灰褐色土：しまりあり。粘性なし。



第33図 第22号土坑出土遺物

第25表 第22号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	法面 (cm)			色調	鉢土	焼成	整形・成形技法	推定年代	備考
			口径	底径	深度						
1	土師器	甕	(18.6)	—	[5.4]	洪褐色	長石・石英微量・雲母微量	普通	口縁部ヨコナデ・体部内面ヘナダ	8c前半	

第3節 溝跡

溝跡は4条を確認したが、直線状に並ぶことから同一遺構として捉え、各部分に枝番を付した。

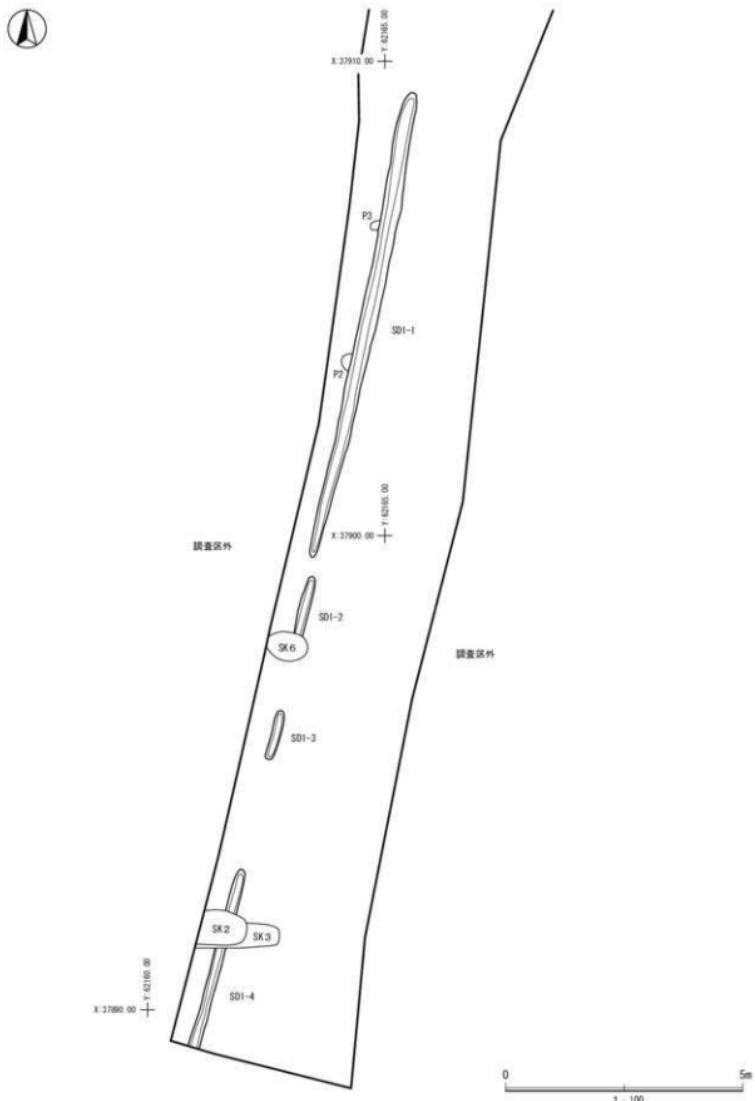
第1号溝跡（1-1・2・3・4）（第34・35図/第27表/図版21）

位置・重複関係 6・7・8Bグリッドに位置する。南側は調査区外へ続く。1-1部分でP2, P3を切る。1-2部分で第6号土坑に切られる。1-4部分で第2号土坑、第3号土坑に切られる。主軸方位はN-14°-Eである。

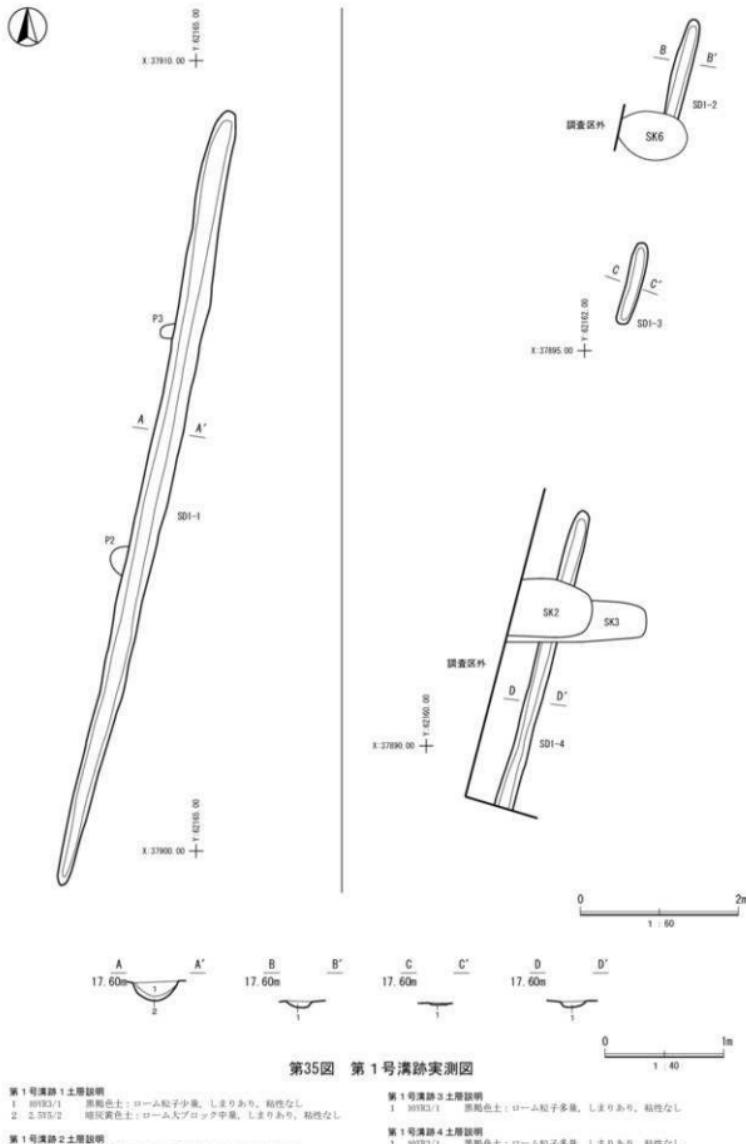
形態 検出部分での平面規模は全体で長軸20.07m以上、短軸20~40cm、深さ5~13cmを測る。南側に向かって比高差10cm程度の傾斜が確認される。

遺物 土師器甕2点を出土したが、図示可能なものはなかった。

時期 廃絶時期は、遺構形状や特徴から中世以降と推定される。

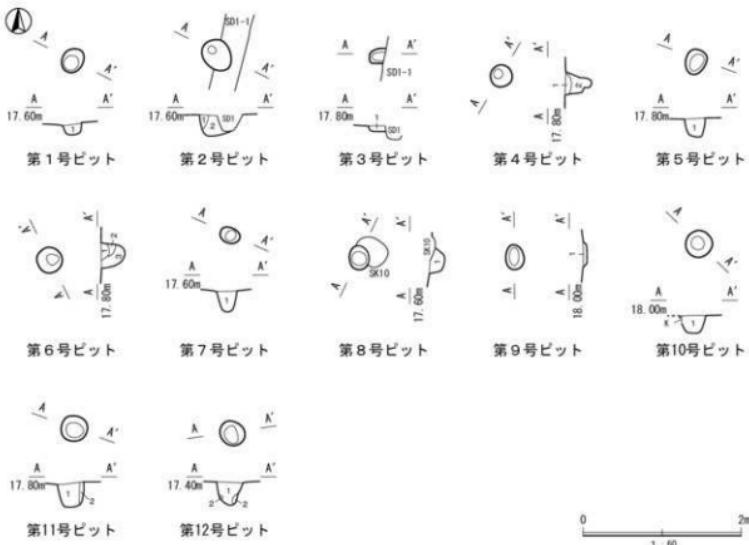


第34図 第1号溝跡全体図



第4節 ピット（第36図/第26・27表）

ピットは12基を検出したが、散漫な分布であり規則性を確認することはできない。出土遺物は、P4から土師器甕1点、P10から土師器甕2点を出土したが、遺構の時期決定に関係するものではないと考えられる。図示可能なものはなかった。



第36図 第1～12号ピット実測図

第1号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

第2号ピット 土層説明

1 10786/8 明黄褐色土：ローム主体、暗灰色小ブロック少量。しまりあり、粘性なし。

2 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

第3号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

第4号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

2 10786/8 明黄褐色土：ローム主体、暗灰色中ブロック中量。しまりあり、粘性なし。

第5号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

第6号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

2 10786/8 明黄褐色土：ローム主体、暗灰色中ブロック中量。しまりあり、粘性なし。

3 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

第7号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

第8号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

第9号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：ローム大ブロック中量しまりあり、粘性なし

第10号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

第11号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

第12号ピット 土層説明

1 10786/1 暗灰色土：しまりあり、粘性なし

2 10786/8 明黄褐色土ブロック

第26表 ピット一覧表

遺構番号	位置	平面形	規模		底面 (断面形)	壁面	覆土	主な出土遺物	重複關係 (古→新)
			長軸×短軸(cm)	深さ(cm)					
P 1	7 B	円形	33×26	14	皿状	外傾	自然	—	本跡→P 7
P 2	6 B	楕円	34×43	27	皿状	外傾	自然	—	本跡→SD1-1
P 3	6 B	不明	19×〔20〕	7	平坦	外傾	自然	—	本跡→SD1-1
P 4	6 B	不整円形	39×28	33	有段	垂直	自然	土師器壺1点	—
P 5	4 C	不整円形	42×26	24	皿状	緩斜	自然	—	—
P 6	3 C	円形	32×30	29	皿状	緩斜	自然	—	—
P 7	7 B	楕円	27×19	28	皿状	緩斜	自然	—	P 1→本跡
P 8	7 B	円形	30×29	20	皿状	外傾	自然	—	—
P 9	2 C	楕円	34×23	5	皿状	外傾	自然	—	—
P10	2 C	円形	34×34	23	皿状	外傾	自然	土師器壺2点	—
P11	2 C	円形	33×32	30	皿状	外傾	自然	—	—
P12	7 B	円形	33×30	27	皿状	外傾	自然	—	SK17→本跡

第5節 遺構外出土遺物（第27表）

調査区南側表土から土師器壺1点・甕2点、中央部分の表採から土師器甕1点、須恵器甕1点を出土したが、図示可能なものはなかった。

第27表 B区出土遺物数量一覧表

遺構名	土師器						計	
	壺			甕				
	点数	重さg	点数	点数	重さg	点数		
1号堅穴建物	4	34.8	2	187.0	3	90.0	9	
2号堅穴建物	7	54.1	1	117.0			8	
3号堅穴建物	4	28.5	4	15.6	2	8.0	5	
2号土坛	2	4.8	1	3.7	1	6.1	4	
6号土坛					1	5.9	1	
13号土坛					1	5.4	1	
16号土坛	1	6.5					1	
17号土坛	1	6.3			1	6.7	2	
21号土坛				2	12.4		2	
22号土坛	1	4.6	3	20.3	5	15.0	9	
24号土坛			3	25.0	1	4.9	4	
27号土坛	1	7.6					1	
1号甕			2	7.2			2	
ピット			3	10.8			3	
遺構外	1	5.5	2	36.2		1	13.5	
総計	9	81.0	32	214.0	16	361.7	67	

※個体は、第1号堅穴建物跡 須恵器杯1点のみで、他は全て破片である。

第6章 まとめ

第1節 はじめに

水戸市の東端、那珂川を北に臨む東茨城台地一帯は、国指定史跡である大串貝塚をはじめとして、旧石器から縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世の各時代にわたる多種多様な遺跡が分布することで知られている。

東前原遺跡は、東側に向かって舌状に伸びた台地先端部に程近い北東縁に位置しており、これまでに行われた20地点を超える発掘調査で奈良・平安時代を中心とする集落などが確認されているが、いずれも部分的な調査であり、報告例も現段階では限られるところから、遺跡の全体像については不明な点が多く残されている。

以上の現状を踏まえた上で、本項では今回の調査の成果を中心に簡単なまとめを行い、本遺跡の全体像復元に向けての検討材料としたい。

第2節 土地利用の変遷について（第37図）

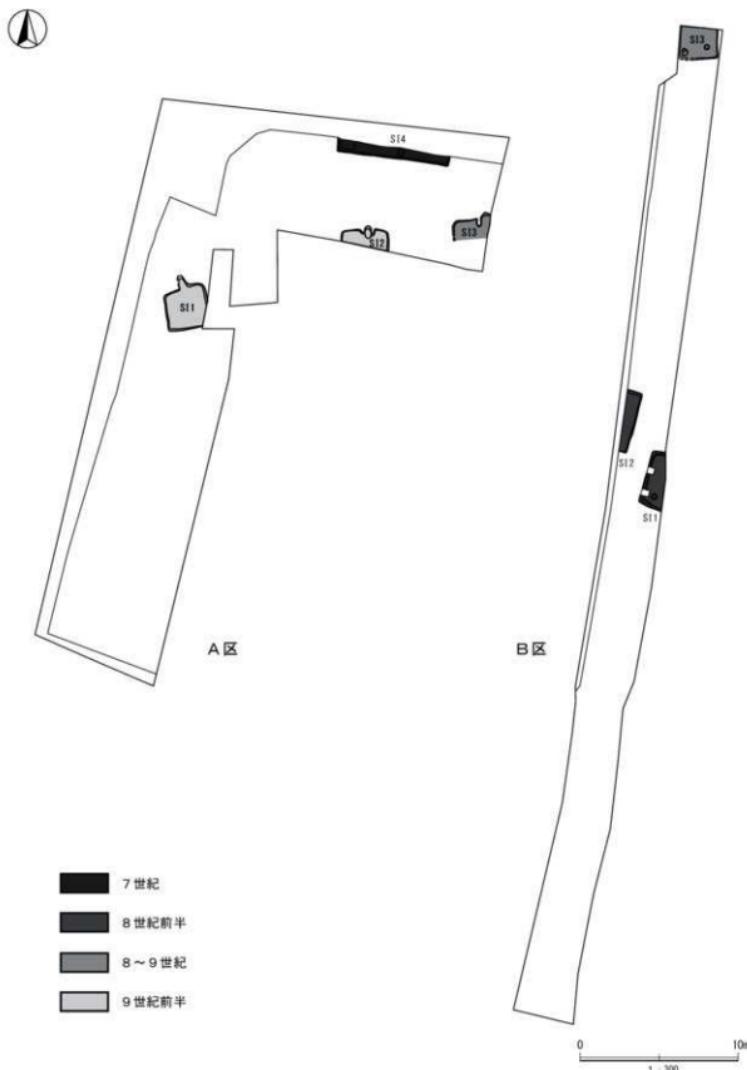
今回の調査は本遺跡北側の第14地点（以下A区）と第15地点（以下B区）の2つの地点を対象としたものであり、北東寄りのA区において竪穴建物跡4軒、土坑42基、溝跡1条、性格不明遺構1基、南西寄りのB区において竪穴建物跡3軒、土坑28基、ピット12基、あわせて竪穴建物跡7軒、土坑69基、溝跡1条、性格不明遺構1基、ピット12基が検出されている。所属する時代は古墳、奈良、平安、中世、近世であり、中世以降と推定される土坑に混入していた縄文土器の細片を除けば、旧石器、縄文、弥生時代に伴う明確な遺構・遺物は今回の調査では確認されなかった。以下では、明らかになった時期ごとに本地点を舞台にした土地利用の変遷を概観したい。

第1項 7世紀後半

A区の北端より4号竪穴建物跡が検出されている。東西の径684cmを測る推定方形の大形の竪穴建物跡である。南壁中央部に入口施設と思われる落込みを伴うが、北側の大部分は調査区外にかかっており、全容は不明である。規模や形状、出土遺物などから廃絶時期は7世紀後半を中心とした古墳時代後期であった可能性が推測されるが、確認された遺構は本竪穴建物跡の1軒のみであり、当該期の集落のあり方については今後の検討課題である。

第2項 8世紀から9世紀

A区より3軒(SI 1～3)、同じくB区より3軒(SI 1～3)、あわせて6軒の竪穴建物跡が検出されている。全掘された例は皆無であり、特に調査区の幅が狭いB区の3軒は一部が確認されただけである。長径277～390cmほどの比較的小形の方形の竪穴建物跡であり、A区の3軒はいずれも北壁中央にカマドを伴う。



第37図 7世紀～9世紀竪穴建物跡分布図

これらの6軒の堅穴建物跡に切り合い関係は認められないが、出土遺物などから廃絶時期については次のような新旧関係を想定することができる。

- | | |
|-------|-----------|
| 8世紀中葉 | B区1・2号 |
| 8～9世紀 | A区3号、B区3号 |
| 9世紀前半 | A区1・2号 |

8世紀中葉の2軒は南北に細長いB区の中央部の東と西に隣り合うように分布している。カマドは未確認であるが、推定主軸方向もN-15°-Eで共通しており、長径も362cmと390cmを測り、差異は少ない。遺物はB区1号堅穴建物跡から土師器の壺、須恵器の壺、須恵器の甕、同2号から土師器の甕、須恵器の壺などが出土している。

8～9世紀の2軒はA区の北東端とB区の北端というように、大きく離れて分布する。部分的な確認であるため、規模は不明であるが、方形と推定される堅穴建物跡であり、推定主軸方向もN-3°-WとN=0°で近似値を示している。遺物はA区3号堅穴建物跡で土師器の甕と須恵器の甕、B区3号堅穴建物跡で土師器の壺・甕、須恵器の壺・甕などが出土している。

9世紀前半の2軒はA区の東側と西側に9mほどの距離を隔てて分布する。北カマドをもつ長径300cm前後の方形の堅穴建物跡であり、主軸方向にも大きな差異は認められない。遺物はA区1号堅穴建物跡から土師器の甕、須恵器の壺・高壺・甕、A区2号堅穴建物跡から土師器の壺・甕、須恵器の壺・高壺・蓋・甕などが出土している。須恵器は木葉下窓跡群の生産になるものが含まれる。

このように、規模・形状・主軸方向の各面について強い規格性を示すことや、時期が限定できる8世紀中葉と9世紀前半の各2軒はいずれも近接して分布する姿をみせている。これらのこととが本時期の集落のあり方を示唆するものかどうか注目されるところであるが、調査範囲、検出された遺構ともごく限定的な現状では、集落の全体像を議論するまでは至らない。

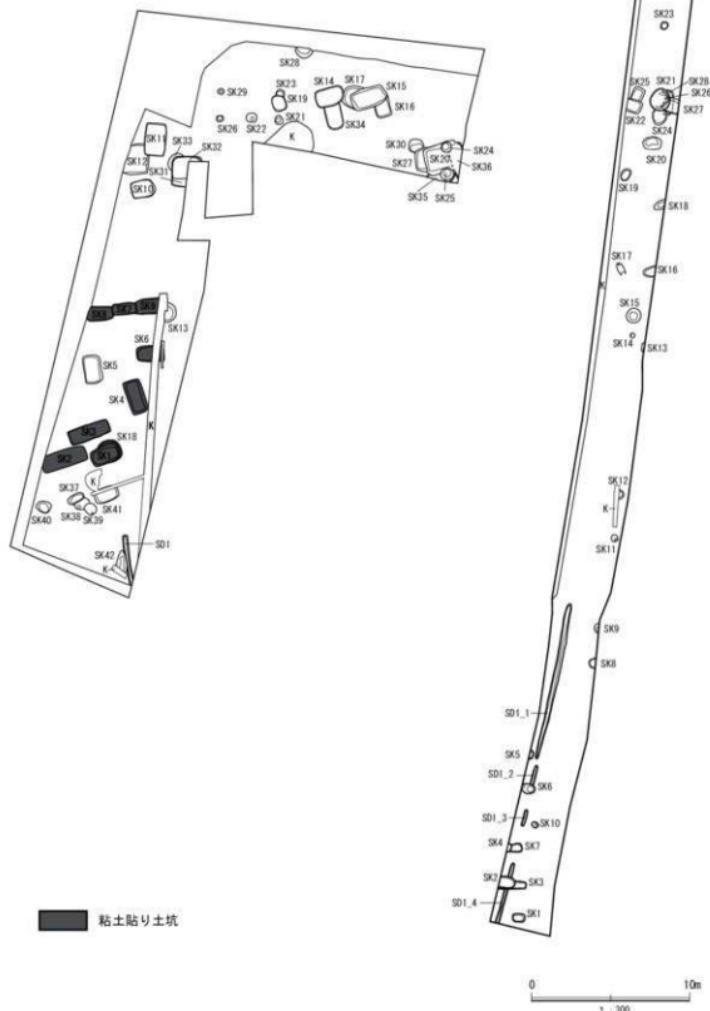
第3項 15世紀以降

広範囲にわたって集落の分布が確認されている奈良・平安時代とは対照的に、集落の存在が不明瞭になる時期であり、本地点でも堅穴建物跡に代わって大小多様な土坑群や溝跡、性格不明遺構などが登場する。

土坑はA区で42基、B区で28基、あわせて70基の分布が確認されている。時期の特定が可能な遺物を伴う例は少ないが、遺構の形状や特徴などを手掛かりに推定された廃絶時期は以下の通りである。

- | | |
|------|---|
| 中世以降 | 35基 A区27基 (1～12・14～17・19・20・27・31・32・34・36～39・41号)
B区8基 (1～3・6・22・24・25・27号) |
| 近世以降 | 1基 A区1基 (42号) |
| 時期不明 | 34基 A区14基 (13・18・21～26・28～30・33・35・40号)
B区20基 (4・5・7～21・23・26・28号) |

溝跡はA区とB区で各1条、あわせて2条が検出されている。確認部分の長さはA区の1.5m以上に対し、B区は20m以上と差異はあるが、最大上幅40～50cm、深さ13～18cmほどであり、調査区をほぼ南北方向に走るという規格性を示している。



第38図　溝・土坑分布図

これらの土坑群や溝跡は基本的に集落に伴う施設ではあるが、貯蔵や区画などの農耕と密接に関連した施設であった可能性が高いものであり、前代まで居住施設を中心とした集落として継続利用されてきた本地点の機能に、中世以降、大きな変化が起きたことがうかがわれる。東前原遺跡周辺の台地上では北東側に位置する椿山館跡をはじめとして中世の城館跡が多数営まれる一方、当該期の明瞭な集落の分布が未確認であることとも、居住施設を中心とした集落からの土地利用の変化を裏付けるものといえる。中世以降と推定される性格不明造構、時期不明のビットなどについても、同様の視点からその性格を検討するのが妥当であろう。

A区37・38号土坑から出土した15世紀代と推定される土師質土器内耳鍋、溝跡から出土した陶器や瓦質土器、性格不明造構から出土した陶器片口鉢などを除けば、中世以降の遺物はきわめて少なく、量的には前代の土師器や須恵器の混入例が目立つ。なお、A区42号土坑からは18世紀代と推定される肥前系の染付碗が出土しており、わずかながらではあるが、近世の土地利用の痕跡も認められた。

第3節 土坑について（第38図）

本地点から検出された70基の土坑は、平面形（以下プラン）を基準に以下の5つに大別することができる。

円形	23基	A区12基（13・18・21～24・26・28・29・33・35・39号） B区11基（4・5・8～12・14・15・23・24号）
（長）楕円形	12基	A区2基（37・38号） B区10基（6・7・13・16～21・26号）
（隅丸）方形	4基	A区4基（30～32・40号）
（隅丸）長方形	29基	A区23基（1～12・14～17・19・20・25・27・34・36・41号） B区6基（1・2・22・25・27・28号）
溝状	2基	A区1基（42号） B区1基（3号）

このうち粘土貼り土坑はA区にのみ検出された（1～4・6～9・18号土坑）。

多数を占めるのは29基が検出された（隅丸）長方形プランと23基が検出された円形プランであり、前者は土坑全体の約41%、後者は約33%を占める。これらに次ぐのが（長）楕円形プランの12基、約17%であり、（隅丸）方形は4基、溝状は2基と少ない。

（隅丸）長方形プランは規模の面でも大形であり、最大のA区2号土坑は長径302cm、短径115cm、最小のB区1号土坑でも長径78cm、短径64cmを測る。長径の平均は163cm以上であり、大形例が目立つA区の23基に限れば平均長径は179cm以上に及ぶ。円形プランで最大のA区18号土坑の長径が154cmであることを考えれば、（隅丸）長方形プランの大きさは際立っている。

A区の（隅丸）長方形プランの土坑は空間分布でも特徴的であり、調査区の北側と南側に集中する傾向をみせている。とりわけ南側の10基は長軸方向の共通する土坑を中心に整然とした規則的な配列状態を示しており、しかもそのうちの8基が壁面や底面に灰白色粘

土を貼り付けた、いわゆる粘土貼り土坑で占められていたことが注意される。

これら最大厚15cmにも達する粘土が貼りつけられた土坑はいずれも廃絶時期が中世以降と推定されるものであり、長径302cmを測るA区2号土坑をはじめとして、平均長径が211cm以上と特に大形の例で構成されていたことでも注目される。本例は長軸方向でも特徴的であり、南北に細長いA区4号土坑を除く7基は東西に細長くN-63°～88°-Eの範囲に集中している。中でもA区7・8・9号土坑の3基はいずれもN-87°-Eを示すだけではなく、短辺を接続しながら直線的に1列に配置されており、粘土貼り土坑の機能がこのエリアと密接に結びつき、廃絶後も新たな土坑が次々に構築されていたことをうかがわせる。円形プランの唯一の粘土貼り土坑であるA区18号土坑が本エリアに占地していることも、以上の可能性を物語るものである。

一般的に（隅丸）長方形プランの土坑はイモ穴などの貯蔵施設として利用されることが多く、当該土坑が一ヵ所に集中することは他地域の調査事例でも報告されているが、壁や底面に灰白色粘土を厚く貼り付けた粘土貼り土坑の用途を以上の貯蔵施設と同列で論じることは困難であり、耐水性にすぐれた粘土の特性を考えるならば、広い意味での水溜めなどに利用された施設などとしてとらえるのが妥当である。確認された粘土貼り土坑は全般的に浅いが、本来は相応の深さを有していた可能性が高い。また、過去の調査事例などより墓域に伴い検出されることが知られているが、今回の発掘調査で検出された粘土貼り土坑からは骨やなどの埋葬施設と関連する遺物の出土は確認されていないことや、前述した法量や平面形の多様性から、埋葬施設以外の性格と考えている。

以上のことより、当該期の本調査区において貯蔵施設と水溜め施設という2種類の土坑が継続的に造られたことになる。いずれも農業関連施設としての性格が強いものであり、中世以降の本地点における土地利用との関連で示唆的であることは前述した通りである。

第4節　おわりに

今回の発掘調査において、以上のような成果が確認できた。7世紀から9世紀における集落の存在や15世紀の所産と判断した遺物が出土した粘土貼り土坑や粘土を貼らない土坑の分布、粘土貼り土坑から出土した遺物などから埋葬施設以外の用途として利用された可能性、特に粘土を貼るという行為から水貯めやそれに類する行為が想定され、農業施設の利用をも可能性が指摘できたことは当該地における土地利用の変遷を復元する為に大きな成果であろう。また、7世紀から9世紀の堅穴建物跡の拡がり、周辺に位置する中世期における居館等との今回の発掘調査で検出された遺構、特に土坑との関連性など、公にされているデータにより7世紀から9世紀や15世紀以後の環境復元は明確にすることができないことは今後の課題としての成果と言えよう。今回の発掘調査が環境復元の一助となることを願う。

（辻 弘和）

参考文献

- 有山怪世・賀来孝代
・瀬美賢吾
井上義安・蓼沼香未由
・仁平妙子・根本瞳子
茨城県立歴史館編
小川和博・大瀬淳志
川口武彦・色川順子
川口武彦・色川順子
・瀬美賢吾・片平雅俊
川口武彦・関口慶久
・新垣清貴
佐藤次男
高野浩之・米川暢歌
常滑村史編纂委員会編
水戸市市編纂委員会
南田法正・山本千春
・土井道昭・瀬美賢吾
南田法正・山本千春
・土井道昭・川口武彦
・瀬美賢吾
宮田忠洋・瀬美賢吾
2009年3月『荷駄坂遺跡（第1地点）－コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（水戸市埋蔵文化財報告第26集）
1998年『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』 水戸市教育委員会
1995年『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』 茨城県
2008年3月『大串遺跡（第7地点）－介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（水戸市埋蔵文化財報告第14集） 水戸市教育委員会
2009年3月『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』（水戸市埋蔵文化財報告第22集）
2008年12月『元石川大谷原遺跡－宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（水戸市埋蔵文化財報告第20集） 水戸市教育委員会
2007年3月『平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』（水戸市埋蔵文化財報告第11集） 水戸市教育委員会
1994年3月『常滑村史 地誌編』 水戸市教育委員会
2011年3月『赤塚遺跡（第5地点）－市営河和田住宅建て替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（水戸市埋蔵文化財報告第42集）
1989年8月『常滑村史 通史編』 常滑村
1963年10月『水戸市史 上巻』 水戸市
2009年3月『町付遺跡（第1地点）－共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（水戸市埋蔵文化財報告第24集）
2009年3月『東組遺跡（第1地点）－物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（水戸市埋蔵文化財報告第25集）
2009年3月『雁沢遺跡（第1地点）－工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（水戸市埋蔵文化財報告第28集）

